Panasonic

DV 動画編集ソフト

取 扱 説 明 書

（インストール / 簡易マニュアル）

品番 VW-DMDVS4

品番 VW-DTM4W

このたびは、パナソニック DV 動画編集ソフトをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

VQT0C93

もくじ

ご使用の前に（準備）

実際に編集してみよう（基本）

楽しさ広がるさまざまな使いかた（応用）

その他

はじめに

●Microsoft® 、Windows® 、Windows Media® 、DirectX®、DirectDraw®、DirectSound® および Outlook® は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。
●Intel® 、Pentium® 、Celeron® は、Intel Corporation の登録商標です。
●Adobe® および Acrobat® は、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
●AMD Athlon™ は、Advanced Micro Devices, Inc.（AMD）の商標または登録商標です。
●その他、記載されている各種名称、会社名、商標名などは、各社の商標または登録商標です。
●このソフトウェアに収録されているサンプル画像などは、個人で楽しむ目的のみに使用できます。営利目的に使用する場合には権利者の許諾が必要です。
●ソフトウェアのバージョンアップやパソコンの使用環境などにより本説明書の内容・画面と実際の内容・画面が一致しないことがあります。あらかじめご了承ください。
●パソコンの基本的な操作、用語については説明しておりません。パソコン側の説明書などをお読みください。
●MotionDV STUDIO をインストール後に、Windows のスタートメニューから［すべてのプログラム（プログラム）］→［Panasonic］→［MotionDV STUDIO 4.6］→［取扱説明書］を選ぶと、オンラインの PDF 取扱説明書が表示されます。また、［デモンストレーション］を選ぶと、デモムービーが表示され、［ビデオ撮影講座］を選ぶと中村知好氏のビデオ撮影講座が起動します。
●本書の内容に関しましては、事前に予告なしに変更することがあります。
●本書の一部またはすべてを無断記載することを禁止します。
●本書では一部、MotionDV STUDIO 4.6J のことを MotionDV STUDIO、3D-Title STUDIO 1.2J のことを 3D-Title STUDIO、D-VHS ビデオカセットレコーダーのことを D-VHS ビデオと省略して記載しています。
●本書では一部を除き、Windows XP の画面を使用して操作説明を行っておりますので、ご使用のパソコンや OS のバージョンにより、画面が異なる場合などがあります。
●本書のサンプルで使われている氏名、住所などは架空のものです。
●本商品には、CD-ROM と DV ケーブル（VW-DTM4W のみ）が含まれております。
パソコン、デジタルビデオ機器、AC アダプター、DV テープ、DV ケーブル（VW-DMDVS4 の場合）、D-VHS ビデオカセットレコーダー、DVD ビデオレコーダーなどは含まれておりません。

■ **OS による機能限定について**

●本ソフト「MotionDV STUDIO 4.6J」は、ご使用の OS によって一部ご利用いただけない機能がございます。本取扱説明書やガイダンスなどに記載されていても、下記に該当する機能はお使いいただけません。
●Windows XP のみでご利用可能な機能：
DVD レコーダー出力モード（**P46**）
●Windows XP および Me のみでご利用可能な機能：
D-VHS 出力モード（**P44**）

内容物について

内容物をご確認ください。

VW-DMDVS4

CD-ROM

VW-DTM4W

CD-ROM

DV ケーブル（**4** ピン **- 4** ピン）

CD-ROM の内容

MotionDV STUDIO 4.6J :
パソコンとデジタルビデオ機器を DV ケーブルでつなぎ、映像を簡単にデジタル編集 / 加工できます。デジタル編集により画質劣化の少ない映像作品を作ることができます。
また、基本的な機能を取り出した［かんたんモード］は、パソコン初心者の方でも気軽に楽しむことができます。ノンリニア編集とリニア編集の長所を生かしたハイブリッド編集が可能です。

3D-Title STUDIO 1.2J :
デジタルビデオカメラやデジタルカメラを使って撮影した映像に、愉快な 3D アニメーションや、3D フォントのタイトル、音声や効果音をつけて演出することができます。また、はがきやシールに印刷することもできます。

CG 素材集 :
MotionDV STUDIO や 3D-Title STUDIO で利用でき、より楽しい作品作りに役立てることができます。

DirectX 8.1 :
MotionDV STUDIO をご利用いただくために必要なマルチメディア・プログラミング・インターフェースです。

Adobe Acrobat Reader 5.0 :
MotionDV STUDIO や 3D-Title STUDIO の PDF 取扱説明書をご覧いただくために必要なソフトウェアです。

用意するもの

次のものを用意してください。

■ **DV** 端子（**IEEE1394** 端子）付きデジタルビデオ機器（別売）
対象デジタルビデオ機器については、パナソニックのホームページでご確認ください。

■ **DV** テープなど（別売）

■ **DV** ケーブル（**VW-DTM4W** は付属）
パソコンの端子の形状に合わせてお選びください。

さらに・・・

❑ **D-VHS ビデオカセットレコーダー（以降「D-VHS ビデオ」）（別売）**を接続すると、パソコンで編集した映像を D-VHS ビデオテープに録画（出力）することができます。（ただし D-VHS ビデオテープの映像をパソコンに取り込むこと（入力）はできません）
対象機種：当社製 D-VHS ビデオ（品番 NV-DH1、NV-DHE10、NV-DH2、NV-DHE20）（2002 年 11 月現在）
※この機能は Windows XP / Me をお使いの場合のみご利用いただけます。

❑ **DVD ビデオレコーダー（別売）**を接続すると、パソコンで編集した映像を DVD ディスク（別売）に録画（出力）することができます。（ただし DVD ディスクの映像をパソコンに取り込むこと（入力）はできません）
対象機種：当社製 DVD ビデオレコーダー（品番 DMR-HS1、DMR-HS2）（2002 年 11 月現在）
使用可能なディスク：DVD-R、DVD-RAM
※この機能は Windows XP をお使いの場合のみご利用いただけます。

MotionDV STUDIO の詳しい情報や対象パソコン **/** デジタルビデオ機器については、インターネット上のパナソニックビデオ（**MotionDV STUDIO**）のホームページをご確認ください。
http://www.panasonic.co.jp/customer/video/connect/index.html

MotionDV STUDIO の特長

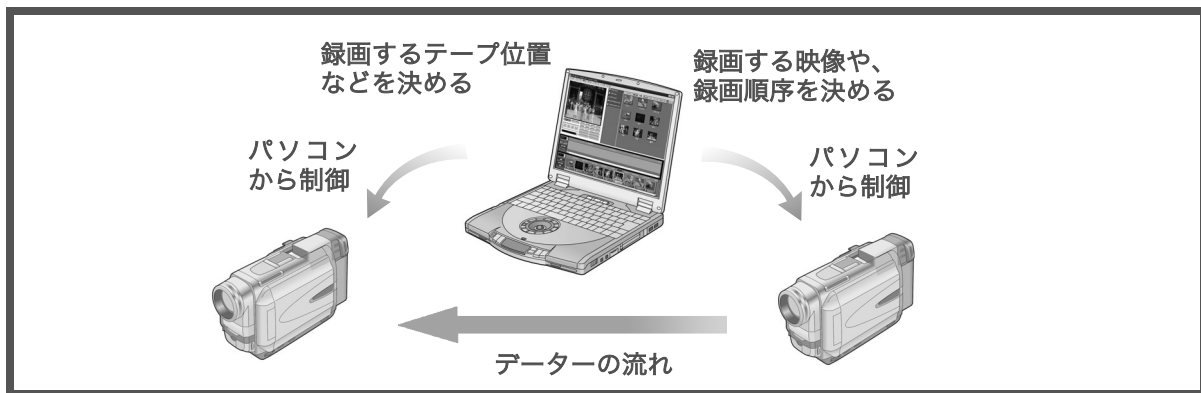
MotionDV STUDIO はパソコンとデジタルビデオ機器（デジタルビデオカメラなど）をつないで、映像を編集するソフトです。
編集方式には、ノンリニア編集、テープ（リニア）編集、両方の長所を生かしたハイブリッド編集があります。編集したい映像の特性に合わせて編集を行うことができます。
当社製 D-VHS ビデオや DVD ビデオレコーダーを接続すると、MotionDV STUDIO 4.6J で編集・加工した映像を D-VHS ビデオテープや DVD-R、DVD-RAM ディスクに録画することができます。

準備

ノンリニア編集

デジタルビデオ機器の映像をパソコンに取り込み編集します。様々な特殊効果を入れることができます。

テープ（リニア）編集（この編集にはパソコンに DV 端子（IEEE1394 端子）が 2 つ必要です）

パソコンに 2 台のデジタルビデオ機器をつなぎ、パソコンから 2 台の機器をコントロールして編集します。映像をパソコンに取り込まず、1 台目の機器から 2 台目の機器に直接転送するため、ハードディスク容量を気にせず編集でき、長時間の映像を編集するときに便利です。

ハイブリッド編集

ノンリニア編集とテープ編集の長所を生かした編集ができます。
ノンリニア編集は様々な特殊効果を入れることができますが、長時間の映像を取り込むにはたくさんのハードディスク容量（約 4 分で 1 GB）が必要です。一方、テープ（リニア）編集は長時間映像の編集は簡単ですが、特殊効果や音声を入れることはできません。MotionDV STUDIO では長時間の編集にはテープ編集、特殊効果を入れたい場面はノンリニア編集というように使い分けることができます。

動作環境

ソフトをインストールして使うには、パソコンに以下の環境が必要です。
●インストールには CD-ROM が読めるドライブが必要です。
●作成した動画（AVI、ASF ファイルなど）を再生するには、Windows Media Player などの動画プレーヤーが必要です。（Windows 98 SE の場合、MPEG1、ASF ファイルを再生するには、Windows Media Player 6.4 以上が必要です）
●下記の動作環境を満たしていても、一部ご使用になれないパソコンがあります。

■ MotionDV STUDIO 4.6J

対象 OS：　プリインストールされた Microsoft Windows 98 SE（Second Edition ）/ Me（Millennium Edition）/ 2000 Professional（Service Pack 3）/ XP Home Edition / XP Professional 日本語版
CPU：　Intel Pentium Ⅲ プロセッサ 700 MHz 以上
AMD Athlon 1.0 GHz 以上
ハードディスク：　Ultra DMA-33 以上
130 MB 以上の空き容量が必要（コンパクトインストール）
420 MB 以上の空き容量が必要（標準インストール）
映像の取り込みに必要なハードディスク容量の目安
DV:　約 4 分のデーターで 1 GB
MPEG2:　約 12 分のデーターで 1 GB（高画質）
約 32 分のデーターで 1 GB（高圧縮）
搭載メモリー：　256 MB 以上
（メモリー増設でより快適な操作ができます）
ビデオ：　DirectDraw のオーバーレイに対応
4 MB 以上のビデオメモリー
1024 × 768 以上 / High Color（16 bit）以上
サウンド：　PCM 音源（DirectSound 対応）
インターフェース：　DV 端子（IEEE1394 端子）（IEEE1394.a）
その他：　Microsoft DirectX 8.1
Microsoft Windows Media Player 6.4 以上

■ 3D-Title STUDIO 1.2J

対象 OS：　Microsoft Windows 98 SE（Second Edition）/ Me（Millennium Edition）/ 2000 Professional / XP Home Edition / XP Professional 日本語版
CPU：　Intel Celeron 500 MHz 以上（互換 CPU を含む）
ハードディスク：　200 MB 以上の空き容量が必要（ユーザーのデーター領域は別途必要です）
搭載メモリー：　Windows 98 SE / Me / 2000: 64 MB 以上（128 MB 以上推奨）
Windows XP: 128 MB 以上（256 MB 以上推奨）
ビデオ：　800 × 600 以上 / High Color（16 bit）以上
サウンドカード：　ドライバーが DirectSound に対応したカード
必要なソフトウェア：　Microsoft DirectX 6.1 以上
Microsoft DirectX Media 6.0 以上
Microsoft Windows Media Player 6.4 以上
その他：　DV キャプチャー使用時：
IEEE1394 端子（OHCI 準拠）
DMA 転送に対応したハードディスク（ATA33 以上）
デジタルカメラやデジタルビデオカメラで記録したメモリーカードの画像ブラウザ（Card View）表示時：
SD メモリーカード / マルチメディアカード / コンパクトフラッシュカードを読める装置（USB 接続端子が付いている当社製デジタルカメラまたはデジタルビデオカメラを使ってメモリーカードを読むことができます）

■ CG 素材集

対象ソフト：　MotionDV STUDIO 4.6J、3D-Title STUDIO 1.2J
ハードディスク：　MotionDV STUDIO のみインストールされている場合：
80 MB 以上の空き容量が必要
3D-Title STUDIO のみインストールされている場合：
100 MB 以上の空き容量が必要
MotionDV STUDIO と 3D-Title STUDIO がどちらもインストールされている場合：
180 MB 以上の空き容量が必要
※上記は、インストールできる素材をすべてインストールした場合の容量です。

インストール

CD ランチャー画面について

付属の CD-ROM を CD-ROM ドライブに入れると、自動で CD ランチャーが起動します。
この CD ランチャーのメインメニューから、MotionDV STUDIO や 3D-Title STUDIO など、製品のインストールを行うことができます。
また、オンラインで MotionDV STUDIO のサポート情報を確認したり、ユーザー登録をすることもできます。

- ●サポート情報を確認したりユーザー登録を行うには、インターネットに接続できる環境が必要です。
- ●CD ランチャーが自動で起動しない場合は、［スタート］→［マイコンピュータ］を選び（またはデスクトップの［マイコンピュータ］をダブルクリックして）、［MOTIONDV_STUDIO］をダブルクリックしてください。（［MOTIONDV_STUDIO］を開いて［Setup（Setup.exe）］（ ）をダブルクリックしても起動できます）

❶ 製品のインストール
MotionDV STUDIO、3D-Title STUDIO、CG 素材集などの製品を選択してセットアップします。

❷ 今すぐユーザー登録
MotionDV STUDIO のユーザー登録を行うことができます。クリックすると、パナソニック製品のユーザー登録総合受付ページに接続しますので、Video の項目にある、［Panasonic 映像関連ソフトウェア］を選択し、画面の表示に従ってユーザー登録を行ってください。
（インターネットに接続できる環境が必要です）
- ●MotionDV STUDIO のメニューからもユーザー登録を行うことができます。詳しくは PDF 取扱説明書をご覧ください。

❸ 製品サポート
MotionDV STUDIO など、パナソニック製品に関するお問い合わせ先を表示します。
パナソニックのホームページにある、製品情報ページやお客様サポートページに接続することもできます。
（インターネットに接続できる環境が必要です）
- ●お客様サポートページには、MotionDV STUDIO メニューの［ヘルプ］→［オンライン］→［サポートサイト］からも接続することができます。

❹ 終了
CD ランチャーを終了します。
- ●再度 CD ランチャーを起動したい場合は、［スタート］→［マイコンピュータ］を選び（またはデスクトップの［マイコンピュータ］をダブルクリックして）、［MOTIONDV_STUDIO］をダブルクリックしてください。（［MOTIONDV_STUDIO］を開いて［Setup（Setup.exe）］（ ）をダブルクリックしても起動できます）

MotionDV STUDIO のインストール

インストール前に DV ケーブルを抜いておいてください。
Windows 上で起動しているソフト（ウィルス検出ソフトなどの常駐ソフトを含む）は終了しておいてください。

1 CD-ROM をパソコンに入れる

自動的に CD ランチャーが起動します。
CD ランチャーが自動で起動しない場合は、[スタート] → [マイコンピュータ] を選び（またはデスクトップの [マイコンピュータ] をダブルクリックして)、[MOTIONDV_STUDIO] をダブルクリックしてください。([MOTIONDV_STUDIO] を開いて [Setup (Setup.exe)] ( ) をダブルクリックしても起動できます)

2 [製品のインストール] をクリックする

3 [MotionDV STUDIO] をクリックする

4 [次へ] ボタンをクリックする

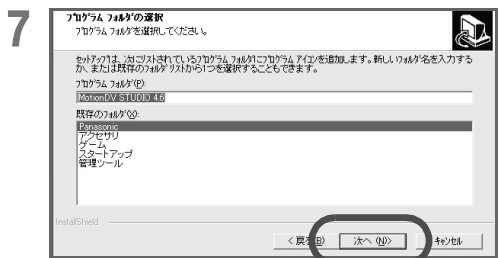
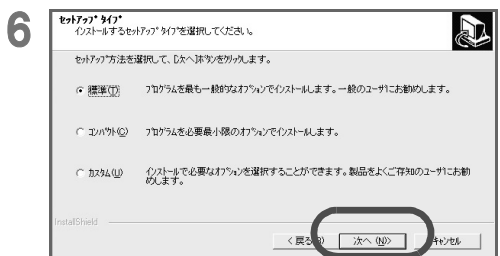
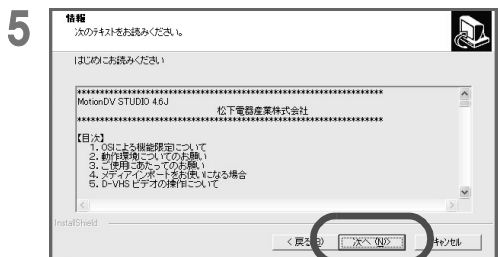
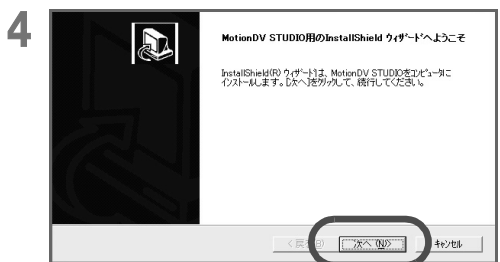
[情報] 画面が表示されます。

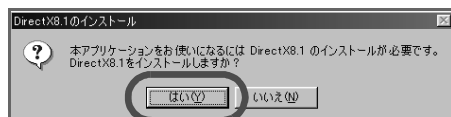
5 情報をよく読み、[次へ] をクリックする

6 セットアップ方法を選択して [次へ] ボタンをクリックする

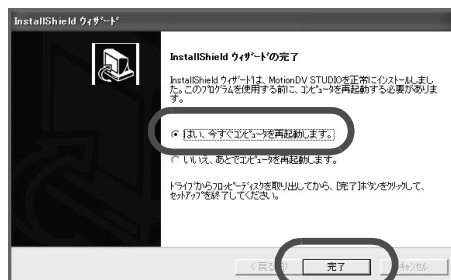
● [カスタム] を選ぶとサンプルファイルなど、インストール内容を設定できます。

7 [次へ] ボタンをクリックする

インストールが始まります。

■ **Windows 98SE / Me / 2000 Professional** の場合
DirectX 8.1 のインストール選択画面が現れます。
［はい］をクリックしてください。

- すでにインストールされている場合は、［いいえ］をクリックしてください。
- ［製品のインストール］画面から DirectX 8.1 だけをインストールすることもできます。

8 セットアップ終了後、再起動オプションを選択し、［完了］ボタンをクリックする

インストールが完了し、再起動が始まります。
再起動後、MotionDV STUDIO が使用できるようになります。

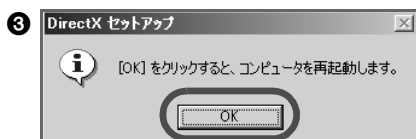
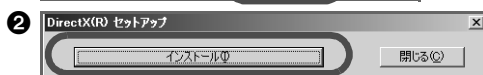
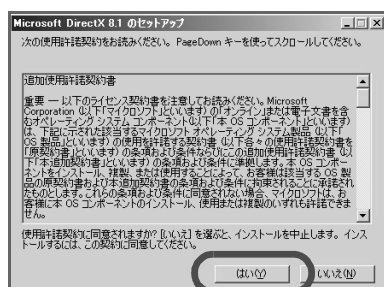
- 再起動オプションがない場合もあります。

8
■ **DirectX 8.1** のインストール選択画面で［はい］を選択した場合、**MotionDV STUDIO** のインストール完了後、**DirectX 8.1** のセットアップが始まります。

❶ 使用許諾契約書をよく読み、［はい］をクリックする

❷［インストール］をクリックする
インストールが始まります。

- すでにインストールされている場合、［DirectX の再インストール］が表示され、クリックすると再インストールが始まります。
- ［閉じる］をクリックすると DirectX はインストールされずにインストールが終了します。

❸［OK］をクリックする
インストールが完了し、再起動が始まります。

- 再インストールの場合は再起動しません。

❶
❷
❸
■ 再起動後、ファイル＊＊＊（ファイル名が表示されます）見つからないというメッセージが現れることがあります。次の操作をしてください。

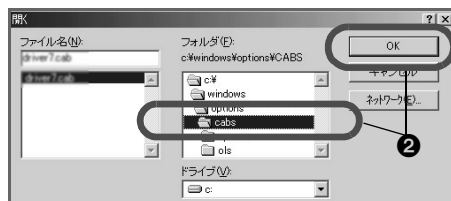
❶［参照］をクリックする

❷［Cabs］フォルダー（**C:￥Windows￥options￥CABS**）を選択し、［**OK**］をクリックする

- パソコンの環境によって［Cabs］フォルダーの場所は異なります。

❸［**OK**］をクリックする

- ［Cabs］フォルダーでファイルが見つからない場合は、OS のディスク（CD-ROM）をパソコンに入れ、画面の指示に従ってファイルをインストールしてください。

準備

●MotionDV STUDIO の前バージョン（体験版、期間限定版などを含む）をインストールしている場合は、それらをアンインストール（**P15**）してから本製品をインストールしてください。
●MotionDV STUDIO の起動前にはパソコンのハードディスクに DMA 設定をしてください。（Q&A（**P50**）をお読みください）
●本書では、MotionDV STUDIO の使いかたの概要について簡単に説明しています。詳細については、PDF 取扱説明書をご覧ください。［スタート］→［すべてのプログラム（プログラム）］→［Panasonic］→［MotionDV STUDIO 4.6］→［取扱説明書］を選択すると表示されます。（PDF 取扱説明書を表示するには、Adobe Acrobat Reader 5.0 が必要です）

Adobe Acrobat Reader のインストール

インストールされた PDF 取扱説明書をお読みいただくには、Adobe Acrobat Reader 5.0 が必要です。パソコンにインストールされていない場合はインストールを行ってください。

1 CD-ROM をパソコンに入れる

自動的に CD ランチャーが起動します。
CD ランチャーが自動で起動しない場合は、［スタート］→［マイコンピュータ］を選び（またはデスクトップの［マイコンピュータ］をダブルクリックして）、［MOTIONDV_STUDIO］をダブルクリックしてください。（［MOTIONDV_STUDIO］を開いて［Setup（Setup.exe）］（ ）をダブルクリックしても起動できます）

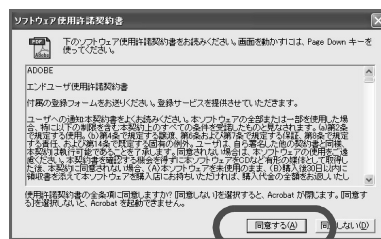
2 ［製品のインストール］をクリックする

2
3 ［Acrobat Reader］をクリックする

3
4 表示される内容をよく読み、指示に従ってインストールする

5 ［OK］をクリックする

インストールが終了します。

5
●最初の起動時に使用許諾契約書が表示されますので、よくお読みのうえ［同意する］をクリックしてください。

DirectX 8.1 のインストール

MotionDV STUDIO をご利用いただくには、DirectX 8.1 が必要です。インストールされていないと、MotionDV STUDIO を起動することができません。MotionDV STUDIO のインストール時にインストールしなかった場合は、[製品のインストール］画面から［DirectX 8.1］を選択してインストールをしてください。

●Windows XPにはすでにインストールされていますので、インストールする必要はありません。

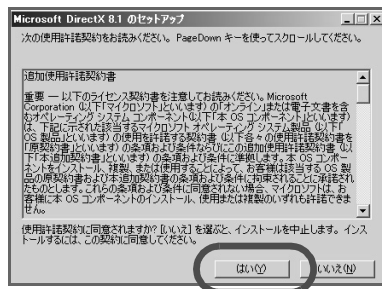
準備

1 CD-ROM をパソコンに入れる

自動的に CD ランチャーが起動します。
CD ランチャーが自動で起動しない場合は、［スタート］→［マイコンピュータ］を選び（またはデスクトップの［マイコンピュータ］をダブルクリックして）、［MOTIONDV_STUDIO］をダブルクリックしてください。（［MOTIONDV_STUDIO］を開いて［Setup（Setup.exe）］（ ）をダブルクリックしても起動できます）

2 ［製品のインストール］をクリックする

3 ［DirectX 8.1］をクリックする

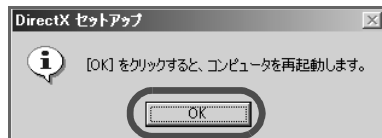
4 使用許諾契約書をよく読み、［はい］をクリックする

5 ［インストール］をクリックする

インストールが始まります。

- すでにインストールされている場合は、[DirectXの再インストール］が表示され、クリックすると再インストールが始まります。
- ［閉じる］をクリックするとDirectXはインストールされずにインストールが終了します。

6 ［OK］をクリックする

インストールが完了し、再起動が始まります。

- 再インストールの場合は再起動しません。

3D-Title STUDIO のインストール

1 CD-ROM をパソコンに入れる

自動的に CD ランチャーが起動します。
CD ランチャーが自動で起動しない場合は、［スタート］→［マイコンピュータ］を選び（またはデスクトップの［マイコンピュータ］をダブルクリックして）、［MOTIONDV_STUDIO］をダブルクリックしてください。（［MOTIONDV_STUDIO］を開いて［Setup（Setup.exe）］（ ）をダブルクリックしても起動できます）

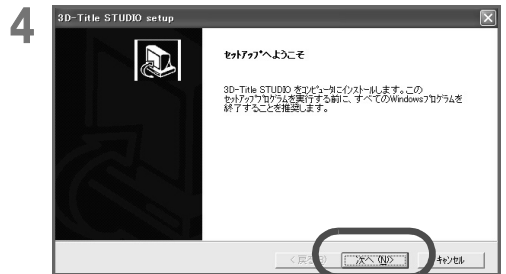
2 ［製品のインストール］をクリックする

2

3 ［3D-Title STUDIO］をクリックする

3

4 ［次へ］をクリックする

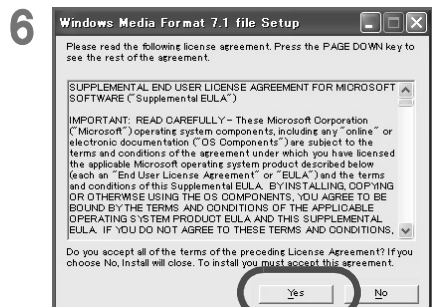
4

5 ［次へ］をクリックする

インストールが始まります。
● インストール先を変更する場合は［参照］ボタンをクリックしてフォルダーを選択してください。

5

6 Windows Media Format 7.1 の使用許諾書が表示されたら［Yes］をクリックする

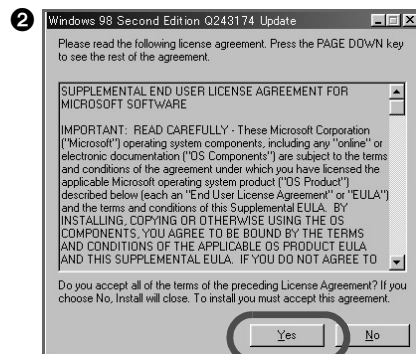
3D-Title STUDIO は Windows Media Format 7.1 のランタイムコンポーネントを使用するため、3D-Title STUDIO をインストールする際、同時にインストールされます。
● バージョンを変更したり、新しいバージョンにアップデートすると、3D-Title STUDIO の一部の機能が使えなくなることがあります。

6

■［Windows 98 Second Edition Q243174 Update］画面が現れることがあります。以下の操作をしてください。

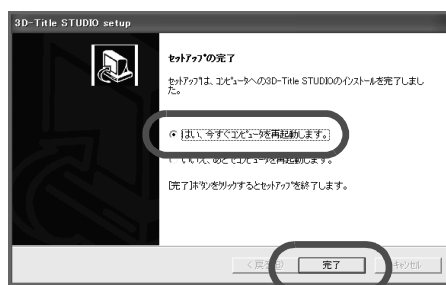
❶［はい］をクリックする

❶

❷［ Yes ］をクリックする

❷

7 セットアップ終了後、再起動オプションを選択し、［完了］ボタンをクリックする

インストールが完了し、再起動が始まります。

7

●3D-Title STUDIOの使いかたについては､ソフトのマニュアルをご覧ください。［スタート］→［すべてのプログラム（プログラム）］→［Panasonic］→［3D-Title STUDIO］→［3D-Title STUDIO マニュアル］から見ることができます。（マニュアルを読むには、Adobe Acrobat Reader 5.0が必要です（**P10**））

●最初の起動時に使用許諾書が表示されますので、よくお読みのうえ、［同意します］をクリックしてください。

●複数のユーザーアカウントが設定されている Windows XP / 2000にインストールする場合､コンピューター管理者権限を持つユーザーアカウントからインストールしてください。

CG 素材集のインストール

MotionDV STUDIO や 3D-Title STUDIO で使用できる CG 素材をインストールします。
先に MotionDV STUDIO または 3D-Title STUDIO をインストールしてから行ってください。

1 CD-ROM をパソコンに入れる

自動的に CD ランチャーが起動します。
CD ランチャーが自動で起動しない場合は、［スタート］→［マイコンピュータ］を選び（またはデスクトップの［マイコンピュータ］をダブルクリックして）、［MOTIONDV_STUDIO］をダブルクリックしてください。（［MOTIONDV_STUDIO］を開いて［Setup（Setup.exe）］（ ）をダブルクリックしても起動できます）

2 ［製品のインストール］をクリックする

3 ［CG 素材集］をクリックする

素材の選択画面が表示されます。

4 インストールしたい素材を選択する

インストールが始まります。

- 使用許諾書が表示された場合は、内容をよくお読みのうえ、［はい］をクリックしてください。
- ［2D-1］は MotionDV STUDIO でのみ使用できます。
- ［すべてインストール］を選択すると、一度にすべての素材をインストールすることができます。（3D-Title STUDIO だけをイントールしている場合は、この機能を使用することはできません）

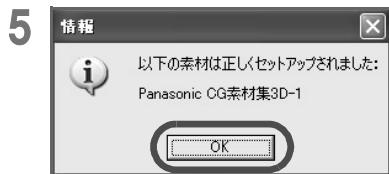
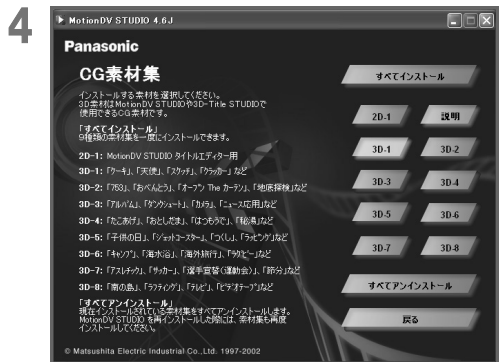
5 インストール終了後、［OK］をクリックする

素材の選択画面に戻ります。
複数の素材をインストールする場合は手順４、５を繰り返します。

（3D-1 をインストールした場合の画面）

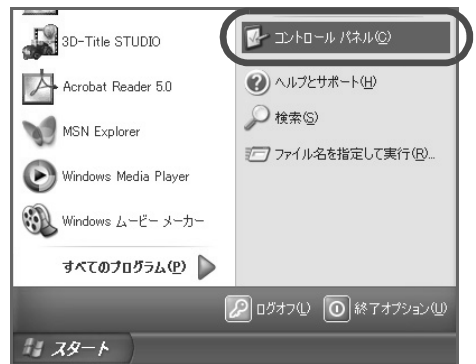
6 閉じるボタン［ ］をクリックして、CD ランチャーを終了する

- ［戻る］をクリックすると製品のインストール画面に戻り、引き続き別の製品をインストールすることができます。

- MotionDV STUDIO を再インストールした場合、CG 素材集が使えなくなる場合があります。
  MotionDV STUDIO を再インストールした際は、一度 CG 素材集をすべて削除し、再度必要な素材集をインストールし直してください。
  CG 素材集のインストール画面（手順４）で［すべてアンインストール］を選択すると、一度にすべての素材集をアンインストールすることができます。

アンインストール

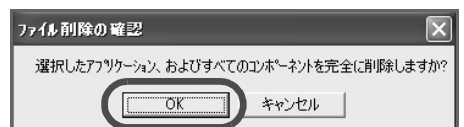
MotionDV STUDIO や 3D-Title STUDIO、CG 素材集が不要になったときは、アンインストールします。

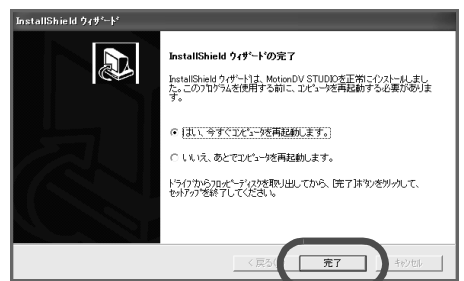
1 ［スタート］（→［設定］）→［コントロールパネル］を選ぶ

コントロールパネルが表示されます。

2 ［プログラムの追加と削除（アプリケーションの追加と削除)］を開く

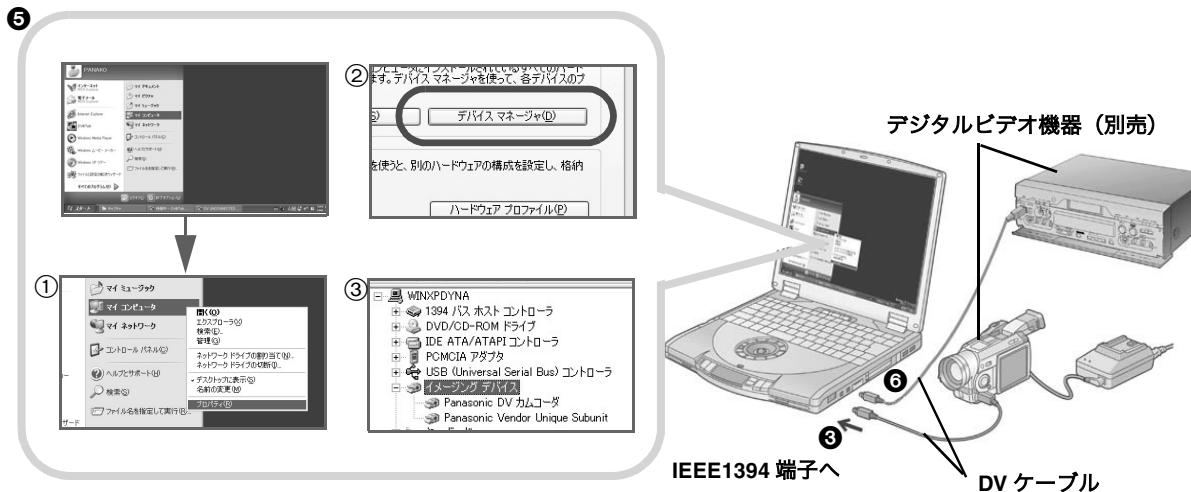
3 アンインストールするソフトなどを選んで、［変更と削除（追加と削除)］をクリックする

アンインストールが始まります。

4 ［OK］ボタンをクリックする

5 ［完了］ボタンをクリックする

● 再起動が必要な場合は、再起動オプションを選択してから［完了］をクリックしてください。

●作成したファイル（ビデオクリップなど）は削除されません。
●MotionDV STUDIO を再インストールする場合は、CG 素材集もすべて再インストールし直してください。CG 素材集のインストール画面で［すべてアンインストール］を選択すると、一度にすべての素材集をアンインストールすることができます。

接続

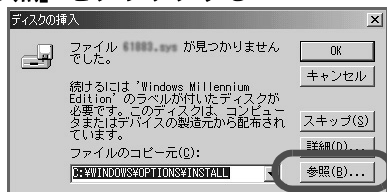
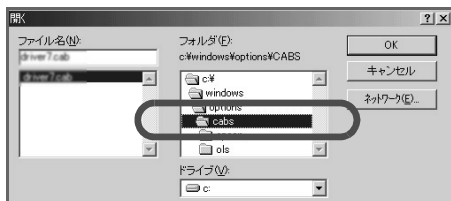
下図のように接続します。

❶ パソコンを起動する

❷ デジタルビデオ機器の電源を入れ、使用するモード（再生モードなど）にする

❸ **DV** ケーブルでパソコンと接続する

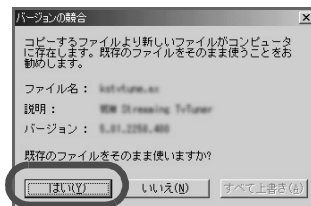
●接続時にパソコン側で認識するのに時間がかかる場合があります。

ファイル＊＊＊（ファイル名が表示されます）が見つからないというメッセージが表示される場合があります。次の操作をしてください。

1［参照］をクリックする

2［**Cabs**］フォルダー（**C:** ¥**Windows** ¥**options**¥**CABS**）を選択して［**OK**］をクリックする

● パソコンの環境によって、［Cabs］フォルダーの場所は異なります。

3［**OK**］をクリックする

● ［Cabs］フォルダーでファイルが見つからない場合は、OS のディスク（CD-ROM）をパソコンに入れ、画面の指示に従ってファイルをインストールしてください。

最初の機器接続時にバージョン競合のメッセージが表示される場合があります。
問題ありませんので［はい］をクリックしてください。

❹ **AutoPlay** 機能を設定する（**Windows XP** のみ）（**P18**）

●DVD ビデオレコーダーの場合は設定する必要はありません。

❺ 正常に接続できているか確認する

①スタートメニューから（OS によっては、デスクトップの）［マイ コンピュータ］を右クリックして［プロパティ］を選ぶ
［システムのプロパティ］が開きます。

②［ハードウェア］タブをクリックして選び、［デバイスマネージャ］をクリックする
（OS によっては、［デバイスマネージャ］タブをクリックする）

③接続を確認する機器の種類アイコンをダブルクリックする
デジタルビデオカメラ、DVD ビデオレコーダー：［イメージングデバイス］アイコン
D-VHS ビデオ：［サウンド、ビデオ、およびゲームコントローラ］アイコン

ご使用機種が表示されているか確認します。
（［Panasonic DV テープ録音 / 再生］など）

● 表示名は接続機種、OS により異なります。

❻ デジタルビデオ機器を 2 台接続するときは❷、❸と同じように接続し、❹、❺と同じように接続を確認する

❼ **MotionDV STUDIO を起動する**（P19）

● **D-VHS ビデオ、DVD ビデオレコーダーを接続する場合、接続手順が異なります。次の「接続時のお願い・ヒント」をお読みください。**

接続時のお願い・ヒント

● 接続中はデジタルビデオ機器の電源を切らないでください。
● 接続中は電源が入っている状態でカセットの出し入れをしてください。
● MotionDV STUDIO の使用時に接続されているデジタルビデオ機器を直接操作すると、パソコン本体およびデジタルビデオ機器が誤作動することがあります。
● 撮影モードで起動するときは、デジタルビデオカメラからカセットを抜いておいてください。
● 2 台の機器を接続するときは、必ず 1 台ずつ手順を守って接続してください。
● 2 台の機器の接続を外すときは、1 台目を外したあと、接続状態を確認してから 2 台目を外してください。
● デジタルビデオカメラ使用時はACアダプターをお使いください。
● 正常に接続できない場合は、「Q&A」の「接続について」（P49）をお読みください。

入力切換が付いているデジタルビデオ機器を接続するときは

入力切換が付いている機種（NV-DV10000、NV-DM1 など）を接続する場合は、MotionDV STUDIO を起動する前にデジタルビデオ機器側で次の設定をしておいてください。

● DV 端子（IEEE1394 端子）が 2 つ以上ある機種は、使用している DV 端子に切り換える
● 編集モードを［外部］にする
● ［編集端子切換］を［DV］にする
● ［入力切換］を［DV 入力］にする

D-VHS ビデオを接続するときは

● パソコンを終了し、D-VHS ビデオの電源を入れてから接続してください。

DVD ビデオレコーダーを接続するときは

● パソコンを終了し、DVD ビデオレコーダーの電源を入れてから接続してください。
● DVD ビデオレコーダーのチャンネルを DV に、ドライブは DVD に設定してください。ドライブを HDD に設定していると録画できません。設定方法については DVD ビデオレコーダーの取扱説明書をお読みください。
● 初めて DVD ビデオレコーダーを接続したときには、［新しいハードウェアの検索ウィザードの開始］が表示されます。
次の操作をしてください。（DVD ビデオレコーダーのためのドライバーをインストールします）

1 ［ソフトウェアを自動的にインストールする］にチェックが入っていることを確認する

2 ［次へ］をクリックする
ソフトウェアのインストールが始まります。
- ハードウェアのインストール画面が表示されたら［続行］をクリックしてください。

3 インストール終了後、［完了］をクリックする

準備

AutoPlay 機能の設定

Windows XP には、接続された機器に関連したアプリケーションをリストアップ、もしくは起動する AutoPlay 機能があります。デジタルビデオ機器を接続すると表示されるダイアログで、MotionDV STUDIO を選択すると、MotionDV STUDIO を自動起動することができます。

1 ［ビデオの編集 Panasonic MotionDV STUDIO 使用］をクリックして選択する

1

2 このデバイスを接続するたびに MotionDV STUDIO を起動させたい場合は、［常に選択した動作を実行する］にチェックを入れる

- チェックをすると、以後は機器の接続を検知すると自動的に MotionDV STUDIO を起動します。
- すでに起動中のときに接続を検知すると、2 つ目の MotionDV STUDIO の起動の際と同じメッセージを出し、2 つ目の MotionDV STUDIO は終了します。（起動中のものはそのままです）

2

3 ［OK］をクリックする

3

設定を変更する場合

タスクトレイに表示されているカメラアイコン［ ］をクリックすると設定ダイアログが表示されますので、設定を変更してください。

- カメラアイコンは機器の接続検知時に、数十秒間だけ表示されます。
- ムービーメーカーを「常に実行」で設定した場合もここで再度選択することができます。

起動してみよう

さっそく起動して MotionDV STUDIO を使いましょう。使いかたの詳細は PDF 取扱説明書をお読みください（起動方法については 3 ページをお読みください）。本書では使いかたの概要を簡単に説明しています。MotionDV STUDIO を使用する前に、他のアプリケーションソフトやウィルスチェックなどの常駐プログラムを終了し、スクリーンセーバーや省電力設定プログラムは切っておいてください。

1 ［スタート］→［すべてのプログラム（プログラム）］→［Panasonic］→［MotionDV STUDIO 4.6］→［MotionDV STUDIO］を選ぶ

最初の起動時に使用許諾書が表示されますので、よくお読みのうえ、［同意します］をクリックしてください。

> インストールされた PDF 取扱説明書を読むためには、Adobe Acrobat Reader 5.0 が必要です。パソコンにインストールされていない場合は、付属の CD-ROM をパソコンに入れてインストールしてください。（**P10**）
> また、MotionDV STUDIO の PDF 取扱説明書をご覧の際には、必ず Adobe Acrobat Reader の使用許諾を行ったうえでご覧ください。

2 MotionDV STUDIO が起動します

❶ **TOOL BOX**
操作モードを切り換えるためのアイコンが配置されています。（**P20**）

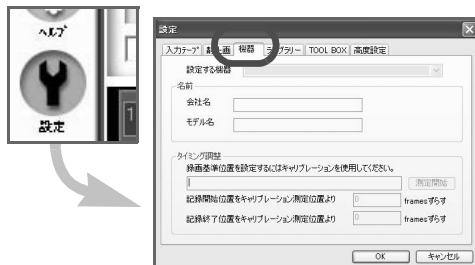
❷ **コントロール画面**
接続機器や取り込んだ映像（ビデオクリップなど）を制御します。

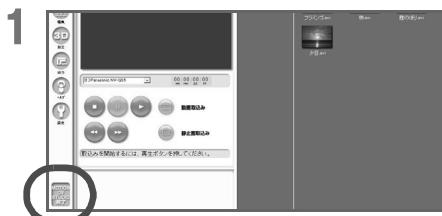
❸ **編集画面**
入力テープトラック（上側）には接続機器の映像が表示されます。
編集トラック（下側）に接続機器の映像やビデオクリップなどを配置して編集します。

❹ **ライブラリー画面**
ビデオクリップや編集情報などがアイコン表示されます。

キャリブレーションについて

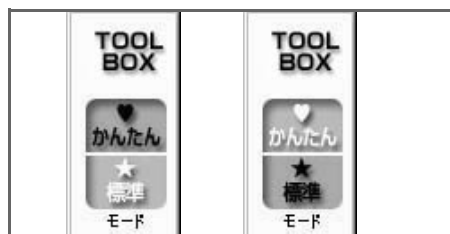
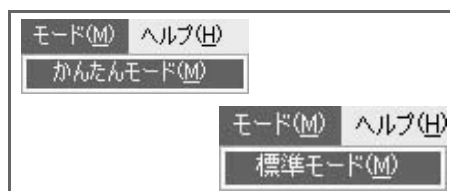
お使いのデジタルビデオ機器によっては微妙なタイミングのずれから録画映像に未録画部分ができたり、映像が一部切れたりすることがあります。編集前にキャリブレーションを行って、タイミング補正を行ってください。キャリブレーションは TOOL BOX の［設定］をクリックして設定画面を表示し、［機器］タブを選んで行います。キャリブレーションが途中で止まる場合は、フレームを手動で補正してください。（**P52**）（詳細は PDF 取扱説明書をお読みください）

●［標準モード］にしてから操作してください。（**P20**）

MotionDV STUDIO を終了するには

1 ［MOTIONDV STUDIO 終了］をクリックする

モードの切り換え

標準モードとかんたんモードの切り換え

MotionDV STUDIO には、すべての操作モードが使える［標準モード］と、一部の操作モードのみ使える［かんたんモード］があります。
［かんたんモード］では、映像の取り込みから出力まで基本的な機能のみ使用できますので、難しい作業を考えることなく、初心者の方でも簡単に編集をすることができます。

1 TOOL BOX の［かんたん］または［標準］をクリックする

- メニューの［モード］から［かんたんモード］または［標準モード］を選択してもモードを切り換えることができます。（モードによってどちらかのメニューが表示されます）

- すべての操作モードを使用したい場合は［標準モード］をお使いください。
- ［かんたんモード］で使用できる操作モードについては、PDF 取扱説明書をお読みください。

操作モードの切り換え

MotionDV STUDIO には 7 つの操作モードがあります。
MotionDV STUDIO を使うときは、はじめに目的の操作に応じた操作モードに切り換えます。
各操作モードについての詳細は PDF 取扱説明書をお読みください。

1 ［TOOL BOX］の任意のアイコンにカーソルを合わせる

操作モードアイコンが表示されます。

2 アイコンを選択する

操作モードが切り換わり、それぞれの操作モードに応じた画面が表示されます。

- また、［TOOL BOX］上のアイコンをクリックすると、そのアイコンに応じた操作モードに切り換わります。
- 選択した操作モードのアイコンはオレンジ色になって TOOL BOX に表示されます。

映像をパソコンに取り込んでみよう

まず編集に使うシーンの映像をパソコンに取り込みましょう。
デジタルビデオ機器とパソコンを接続しておいてください。（**P16**）

DV キャプチャーモードで映像を取り込む

シンプルな操作画面で、簡単に映像や音声を取り込むことができます。

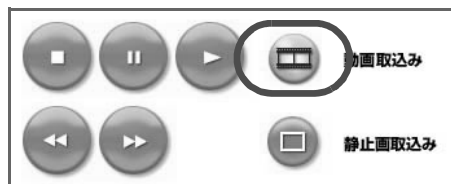
1 ［入力］→［DV キャプチャ］を選択し、DV キャプチャーモードにする

1
2 再生ボタン［▶］をクリックする

プレビュー画面 ① に再生映像が映ります。

2
3 取り込み始めたいところで［動画取込み］ボタンをクリックする

映像の取り込みが始まり、キャプチャー画面が表示されます。

● 静止画を取り込みたいときは［静止画取込み］ボタンをクリックしてください。

3
4 取り込みを終了したいところで［終了］ボタンをクリックする

取り込みが終了し、取り込んだ映像（ビデオクリップ）が、ライブラリーの［動画］に表示されます。

● ［静止画取込み］で取り込んだ映像（静止画クリップ）は、ライブラリーの［静止画］に表示されます。
● 取り込みが終了しても、DV 機器は再生し続けます。

4
●キャプチャー中に入力テープが無記録部分へ切り換わった場合、その時点でキャプチャーは終了します。

基本

DV 機器入力モードで映像を取り込む

取り込みの開始点と終了点を指定して、より正確に映像を取り込むことができます。

1 ［入力］→［DV 機器入力］を選択して DV 機器入力モードにする

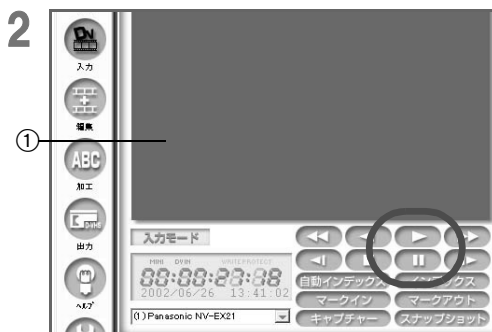
接続しているビデオ機器が操作できます。

● ［かんたんモード］では使えない操作モードです。［標準モード］にしてから操作してください。（P20）

1

2 再生ボタン［▶］をクリックして映像を再生し、取り込み始めるところで静止画ボタン［❚❚］をクリックする

再生ボタン［▶］をクリックすると、再生画像がプレビュー画面 ① に映ります。
静止画ボタン［❚❚］をクリックすると、静止画再生になります。

2

3 ［マークイン］ボタンをクリックする

取り込み開始点が設定され、入力テープトラックに黄色のマーク［⏵］が表示されます。

● 右図は時間軸表示の例です。［表示切換］ボタンをクリックすると、アイコン表示に変わります。

3

4 再生ボタン［▶］をクリックして映像を再生し、取り込みを終わりたいところで静止画ボタン［❚❚］をクリックする

静止画再生になります。

4

5 ［マークアウト］ボタンをクリックする

取り込み終了点が設定され、入力テープトラックに黄色のマーク［⏴］が表示されます。

5

6 取り込む映像のアイコンをダブルクリックする

プロパティ画面が表示されます。

7 取り込みボタン［キャプチャー］をクリックする

取り込み設定画面が表示されます。

8 ［開始］ボタンをクリックする

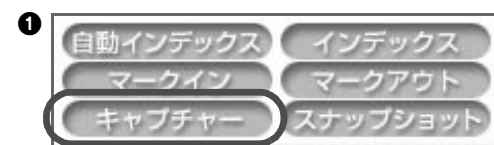
自動的に取り込み開始点までテープを巻き戻し、映像を取り込みます。

9 取り込み完了後、［閉じる］ボタンをクリックする

プロパティ画面に戻ります。［OK］ボタンをクリックするとプロパティ画面が閉じます。

取り込んだ映像（ビデオクリップ）が、ライブラリーの［動画］に表示されます。

ワンタッチで取り込むには

❶ **接続機器を再生中に、取り込み始めたいところでコントロール画面の［キャプチャー］ボタンをクリックする**
取り込みが始まり、キャプチャー画面が表示されます。

❷ **取り込みを終わりたいところで［終了］をクリックする**
取り込みが終了し、取り込んだ映像（ビデオクリップ）が、ライブラリーの［動画］に表示されます。
●取り込みが終了しても、DV 機器は再生し続けます。

基本

静止画を取り込むには（スナップショット）

❶［設定］アイコンを選択する

設定画面が表示されます。

❷［静止画］タブをクリックし、設定後［**OK**］ボタンをクリックする

●設定の詳細についてはPDF取扱説明書をお読みください。

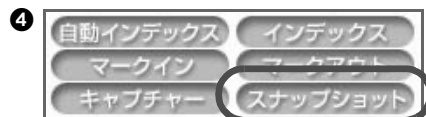
❸再生ボタン［▶］をクリックして映像を再生し、取り込み始めるところで静止画ボタン［❚❚］をクリックする

静止画再生になります。

❹［スナップショット］ボタンをクリックする

映像を静止画クリップとして取り込みます。

●取り込んだ映像（静止画クリップ）は、ライブラリーの［静止画］に表示されます。

●編集内容を再生（**P26**）しているときに、再生映像（ビデオクリップなど）から静止画を取り込むこともできます。

映像を好みの順番につないでみよう

取り込んだ映像（ビデオクリップ、静止画クリップ）を好みの順番につなぎます。

1 ［編集］→［ノンリニア編集］を選択し、ノンリニア編集モードにする

2 ライブラリーの［動画］タブ、もしくは［静止画］タブをクリックする

クリップが表示されます。

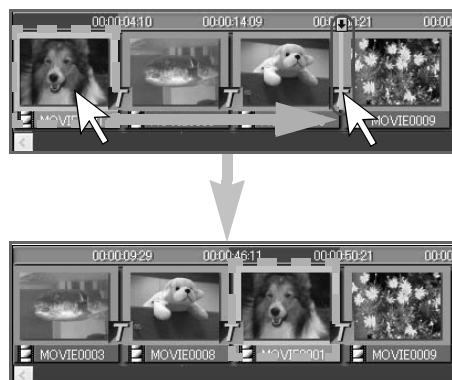
3 任意のクリップを編集トラックにドラッグ・アンド・ドロップする

クリップが編集トラックに表示されます。

- ビデオクリップを配置するとビデオマーク［ ］が、静止画クリップを配置すると静止画マーク［ ］が付きます。

4 手順 2、3 を繰り返し、好みの順番に配置する

配置したビデオクリップの順序を変えるには
ビデオクリップをドラッグ・アンド・ドロップで任意の位置に挿入します。

基本

編集内容を再生するときは

❶ カレントバー（編集トラックの赤いライン）をトラックの先頭にドラッグする

❷ 再生ボタン［▶］をクリックする
カレントバー（赤いライン）が編集トラック上を動き、映像を再生します。

●編集内容を再生しているときに、再生画像から静止画クリップを取り込むこともできます。［スナップショット］と同じ手順で取り込んでください。（**P24**）

クリップをトリミング（長さを変える）するときは

●この操作は［かんたんモード］では行えません。
［標準モード］にしてから操作してください。（**P20**）

❶ カレントバー（赤いライン）をビデオクリップの開始点にしたいところまで移動させる

❷［マークイン］ボタンをクリックする
新たに設定した開始点より前の映像がカットされます。

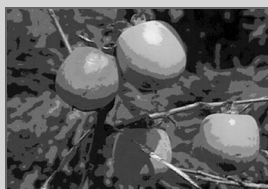
❸ カレントバー（赤いライン）をビデオクリップの終了点にしたいところまで移動させる

❹［マークアウト］ボタンをクリックする
新たに設定した終了点より後の映像がカットされます。

●［表示切換］ボタンをクリックし、時間軸表示にしておくと、トリミングをするのに便利です。
●ビデオクリップ両端のトリミングマーク ① を左右にドラッグして、ビデオクリップをトリミングすることもできます。（トリミングをやり直したい場合はこの方法で行ってください）

ビデオ効果を入れてみよう

配置したクリップにビデオ効果を入れます。
下記は効果（ビデオエフェクト）の例です。

フェードインの例

アートの例

モザイクの例

効果を入れたいビデオクリップや静止画クリップを、編集トラックに配置しておいてください。（**P25**）

1 効果を入れたいクリップを右クリックし、コンテキストメニューの［ビデオエフェクト］を選ぶ

ビデオエフェクト設定画面が表示されます。

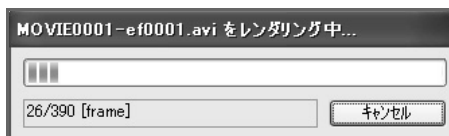
2 ビデオエフェクトの種類をクリックして選ぶ

- プレビュー部のスライダー ① をドラッグすると効果を確認できます。

3 ［詳細設定］を設定する

- エフェクトによっては詳細設定が必要ないものもあります。

4 ［OK］ボタンをクリックする

レンダリング（特殊効果を入れて１つのビデオクリップを作ること）が始まります。

レンダリングが完了すると、編集トラックのクリップ右上にエフェクトマーク［EF］が付きます。

- 効果の入ったビデオクリップは、ライブラリーにも表示されます。

シーンの変わり目に効果を入れよう

配置したクリップとクリップの間に効果を入れます。
下記は効果（トランジションエフェクト）の例です。

ワイプの例

ページの例

クロックの例

効果を入れたいビデオクリップや静止画クリップを、編集トラックに配置しておいてください。（P25）

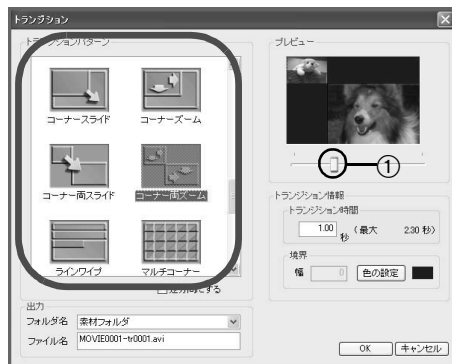
1 効果を入れたい部分のトランジションマーク［T］をダブルクリックする

トランジションエフェクト設定画面が表示されます。

1

2 トランジションパターンの種類をクリックして選ぶ

- プレビュー部のスライダー ① をドラッグすると効果を確認できます。

2

3 ［トランジション情報］を設定する

エフェクトを適用する時間、境界線の幅や色などを設定します。

- 選んだパターンによっては境界線が設定できなかったり、設定できる境界線の幅に制限があります。

3

4 ［OK］ボタンをクリックする

4

レンダリングが始まります。

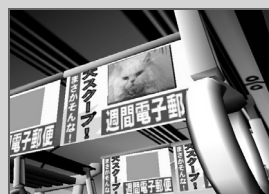
レンダリングが完了すると、編集トラックのクリップ左上にマーク［TR］が付きます。

- 効果の入ったビデオクリップは、ライブラリーにも表示されます。

3 次元の映像でアレンジしよう

3 次元のアニメーションに映像をはめ込んだビデオクリップを作ります。
下記はアニメーションの例です。

ゆきがっせんの例

メリークリスマスの例

電車広告の例

効果を入れたいビデオクリップや静止画クリップを、編集トラックに配置しておいてください。（P25）

基本

1 アニメーションを入れたいクリップをクリックして選ぶ

1

28 sec
00:00:03:00 00:00:08:00
編集
表示切換
出力
ドッグ 柿

2 ［加工］→［3D アレンジ］を選択し、3D アレンジモードにする

3 次元アニメーションの設定画面が表示されます。
- ［かんたんモード］では使えない操作モードです。［標準モード］にしてから操作してください。（P20）

2

3 プルダウンボタン［ ］をクリックして、3D テンプレートの種類を選ぶ

3

4 タイトルの項目をダブルクリックして選ぶ

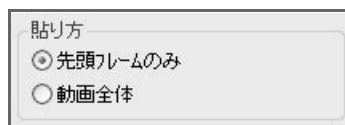
4

タイトル	めやす時間
天使のベル	00:06:26
やまのぼり	00:10:00
ゆきがっせん	00:18:00
高飛び込み	00:09:00
メリークリスマス	00:06:26

5 アニメーションを入れる映像の挿入方法を選ぶ

先頭フレームのみ：ビデオクリップの最初の画面が静止画で入ります。
動画全体　　　　：ビデオクリップの映像が入ります。

- 長時間の映像や極端に短い映像は、［動画全体］にアニメーション効果を入れることができません。

5

6 再生ボタン［▶］をクリックしてプレビュー画面で確認し、［OK］ボタンをクリックする

6
7 ［はい］ボタンをクリックする

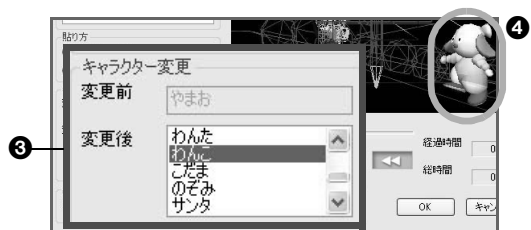
7
レンダリングが始まります。
- 元のファイルが MPEG2 形式のファイルの場合は、「MPG ファイルを作成しますか」と表示されます。

3D アレンジが終了して編集モードに戻り、アニメーションの入ったビデオクリップが編集トラックに表示されます。
- 効果の入ったビデオクリップはライブラリーにも表示されます。

●3D アレンジ起動中に直接他の操作モードに切り換えることはできません。［キャンセル］をクリックして 3D アレンジを終了させてから、他の操作モードを選択してください。

アニメーションのキャラクターを変えるには

キャラクターを別のキャラクターに変更することができます。(キャラクターによっては、変更できないものもあります)

❶ プレビュー画面のスライダーをドラッグして、変更したいキャラクターを表示させる
❷ プレビュー画面で変更するキャラクターをクリックする
選んだキャラクター以外はワイヤーフレーム（骨組み）表示になります。
❸［キャラクター変更］設定部で、変更後のキャラクターをクリックする
キャラクターが変わります。
❹ 変更したプレビュー画面のキャラクターをクリックする
通常のプレビュー画面に戻ります。

音声を追加しよう

クリップに音声を追加します（オーディオミックス)。
パソコンのマイク端子に接続したマイクや、オーディオ CD から音声を録音して音声ファイル（WAV ファイル）にし、クリップに追加します。
この操作の前に、音声を追加したいビデオクリップや静止画クリップを、編集トラックに配置しておいてください。（**P25**）
また、ナレーションなどを追加したい場合は、マイク端子にマイクなどの音声機器を接続し、オーディオ CD の音声を追加したい場合は、CD をパソコンのドライブに入れて、音声を取り込む準備をしておいてください。（Windows 側で設定が必要な場合があります（**P51**）。パソコンの説明書や PDF 取扱説明書をお読みください）

1 ［入力］→［音声素材の取り込み］を選択し、音声素材の取り込みモードにする

［WaveRecorder］が表示されます。

- ［かんたんモード］では使えない操作モードです。
  ［標準モード］にしてから操作してください。（**P20**）

2 録音ボタン［●］をクリックする

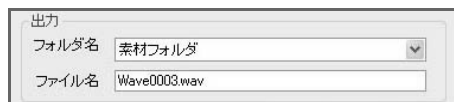
録音が始まりますので、接続している再生機器を再生します。
ナレーションなどを入れるときは、マイクに向かって音声を入れます。

3 停止ボタン［■］をクリックする

録音が終わります。

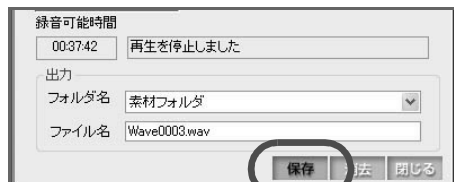
- 録音した音声を確認するときは、［▶］をクリックします。

4 ファイル名を入力する

- フォルダー名は、［素材フォルダ］など MotionDV STUDIO で使っているフォルダーを選択してください。
  プルダウンボタンをクリックして選択できます。

5 ［保存］ボタンをクリックする

保存完了のメッセージが出ます。
［OK］をクリックすると、音声ファイルがライブラリーの［オーディオ］に表示されます。
録音完了後、［閉じる］ボタンをクリックして［WaveRecorder］画面を閉じます。

- 録音をやり直すときは［消去］をクリックして、再度録音してください。

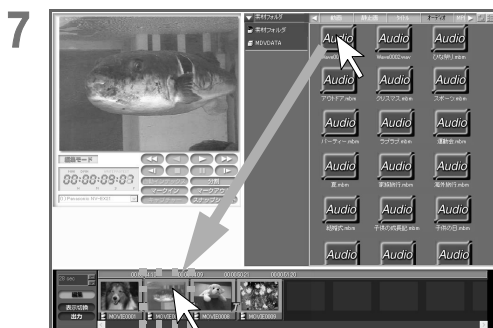
これで、オーディオミックスに使う音声ファイル（WAV ファイル）ができました。

6 ライブラリーの［オーディオ］タブをクリックする

作成した WAV ファイルが表示されます。

6

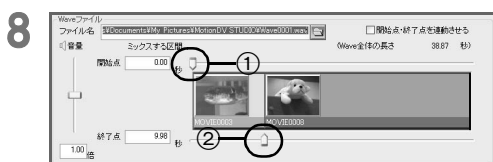
7 音声を入れ始めるクリップに WAV ファイルをドラッグ・アンド・ドロップする

オーディオミックスが表示されます。

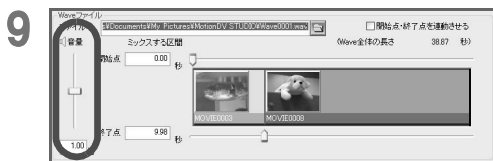
7

8 WAV ファイルの使用する長さ、部分を決める

スライダー①を左右にドラッグして、開始点を設定します。
スライダー②を左右にドラッグして、終了点を設定します。

- 数値を直接入力しても設定できます。
- 長さを変えたくないときは、［開始点・終了点を連動させる］にチェックを入れてから開始点または終了点を設定してください。

8

9 音量スライダーを上下にドラッグして音量を調整する

- フェードイン・フェードアウトにチェックを付けると、音声がフェードします。

9

10 プレビュー部の再生ボタン［▶］をクリックして音声を確認し［OK］ボタンをクリックする

レンダリングが始まります。

10

レンダリングが完了すると、編集トラックのクリップ右下に音符マーク［♪］が付きます。

- 音声の入ったクリップは、ライブラリーにも表示されます。

立体文字でタイトルを作ろう

タイトルエディターモードを使って、文字タイトルを作ります。
タイトルエディターモードにはこの他にもいろいろな機能があります。
PDF 取扱説明書もお読みください。

立体文字の例 1

立体文字の例 2

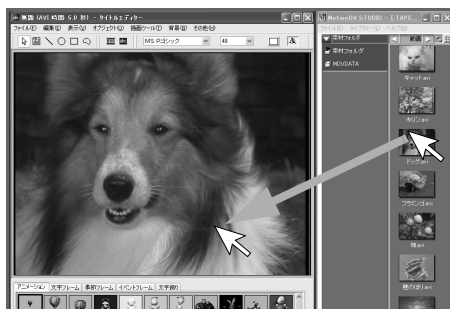
文字の例

基本

1 ［加工］→［タイトルエディタ］を選択し、タイトルエディターモードにする

タイトルエディターが起動します。

2 立体文字を入れたいクリップをライブラリーから編集画面にドラッグ・アンド・ドロップする

- メニューの［背景］→［背景ファイルの読み込み］から希望のファイルを編集画面に配置することもできます。
- 編集画面に配置できるのは AVI、MPEG2、BMP、JPEG、TIFF、PNG、TTE ファイルです。

3 文字入力モードボタン［ ］をクリックし、画面上をクリックする

文字入力領域が表示されます。

4 文字を入力する

5 選択モードボタン［ ］をクリックする

文字が配置されます。

- 文字の大きさ、色、種類は変更できます。
- アニメーションフレーム・ウィンドウの［文字飾り］に用意されているテンプレートを文字の上にドラッグ・アンド・ドロップすると、文字を飾ることができます。

6 文字を右クリックし、コンテキストメニューから［文字属性］を選ぶ

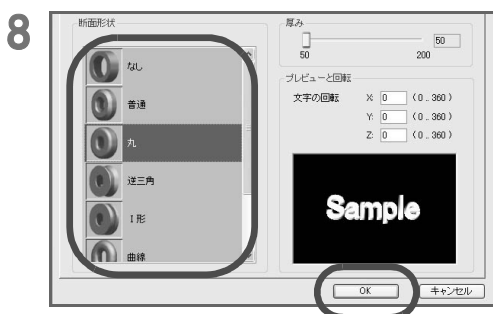
文字属性設定画面が表示されます。

- ［動き設定］を選ぶと文字に動きを付けることもできます。（詳細については PDF 取扱説明書をお読みください）

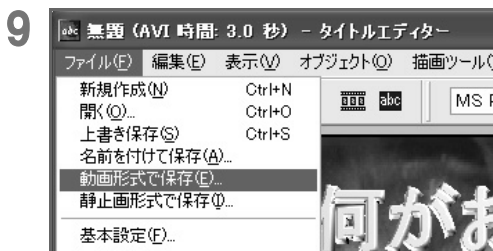
6
7 ［3D］タブをクリックし、［文字を 3D 表示する］にチェックを付ける

3D 文字の設定ができるようになります。

7
8 3D 文字の断面の形状をクリックして選び、［OK］ボタンをクリックする

画面に立体文字が表示されます。

8
9 タイトルエディターメニューの［ファイル］→［動画形式で保存］を選び、保存する

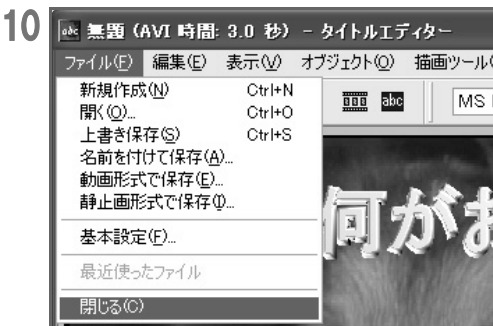
タイトル名を入力して保存します。

- 動画形式で保存すると、MotionDV STUDIO で編集に使うことができます。

9
10 タイトルエディターメニューの［ファイル］→［閉じる］を選ぶ

変更の保存メッセージが表示されます。
［はい］をクリックして保存すると、タイトルファイルとして保存することができ、あとで開いて再編集できます。

タイトルエディターが終了し、MotionDV STUDIO が再び起動します。

- 作成したタイトルファイルは、ライブラリーの［タイトル］に表示されます。

10

アニメーションイラストを入れよう

タイトルエディターモードを使ってアニメーションイラストを入れます。
タイトルエディターモードにはこの他にもいろいろな機能があります。
PDF 取扱説明書もお読みください。

イラストの例 1

イラストの例 2

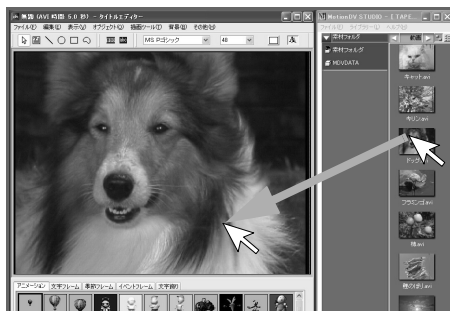
イラストの例 3

基本

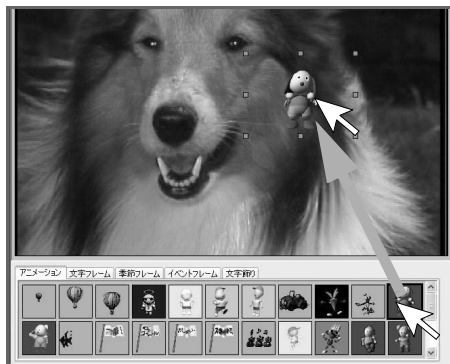
1 ［加工］→［タイトルエディタ］を選択し、タイトルエディターモードにする

タイトルエディターが起動します。

2 イラストを入れたいクリップをライブラリーから編集画面にドラッグ・アンド・ドロップする

- メニューの［背景］→［背景ファイルの読み込み］から希望のファイルを編集画面に配置することもできます。
- 編集画面に配置できるのは AVI、MPEG2、BMP、JPEG、TIFF、PNG、TTE ファイルです。

3 アニメーション・フレームウィンドウの［アニメーション］から希望のイラストを編集画面にドラッグ・アンド・ドロップする

イラストが配置されます。

- メニューの［オブジェクト］→［スプライト挿入］からもアニメーションを入れることができます。（詳細は PDF 取扱説明書をお読みください）
- ［アニメーション・フレームウィンドウ］が表示されていないときは、メニューから［表示］→［アニメーション・フレームウィンドウ表示］を選んでチェックします。

4 イラストを右クリックして、コンテキストメニューから［動き設定］を選ぶ

［動き設定］画面が表示されます。

5 イラストの移動方向を設定する

縦に動かす場合は［縦移動］のプルダウンボタン［▼］をクリックして動きを選びます。
横に動かす場合は［横移動］のプルダウンボタン［▼］をクリックして動きを選びます。

- ［応用］のプルダウンボタンをクリックすると、自由な動きを設定することができます。（3D 文字には設定できません）
- 文字と 3D 文字には［3D］の動きを設定することができます。

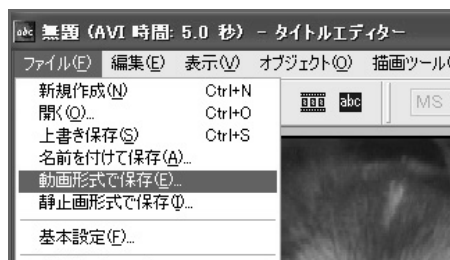
6 再生ボタン［▶］をクリックして、設定した動きを確認し、［OK］ボタンをクリックする

［動き設定］画面が消えます。

- 実際に動かすには、動画形式で保存する必要があります。

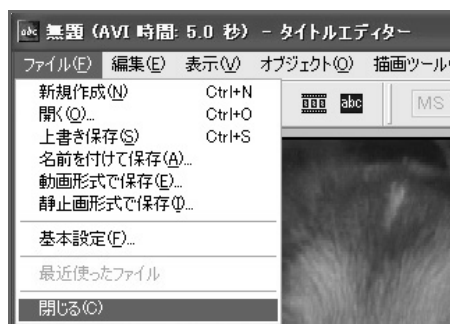
7 タイトルエディターメニューの［ファイル］→［動画形式で保存］を選び、保存する

タイトル名を入力して保存します。

- 動画形式で保存すると、MotionDV STUDIO で編集に使うことができます。
- 作成したタイトルファイルは、ライブラリーの［動画］に表示されます。

8 タイトルエディターメニューの［ファイル］→［閉じる］を選ぶ

変更の保存メッセージが表示されます。
［はい］をクリックして保存すると、タイトルファイルとして保存することができ、あとで開いて再編集できます。

タイトルエディターが終了し、MotionDV STUDIO が再び起動します。

- 作成したタイトルファイルは、ライブラリーの［タイトル］に表示されます。

編集内容をテープに録画しよう

編集した内容を DV テープに記録することができます。
録画前にデジタルビデオ機器とパソコンを DV ケーブルで接続しておいてください。（**P16**）
デジタルビデオ機器を最初に使うときはキャリブレーションを行ってください。

1　録画用のテープをデジタルビデオ機器に入れる

- 誤消去防止つまみを録画側［REC］にしておきます。

2　編集したビデオクリップが編集トラックに表示されているか確認する

2
3　［出力］→［DV 機器出力］を選択し、DV 機器出力モードにする

- 編集トラックにある［出力］ボタンをクリックして、起動した出力ウィンドウから［DV 機器出力］を選んでも DV 機器出力モードにすることができます。

3

4　プルダウンボタン［▼］をクリックして出力する機器を決める

- デジタルビデオ機器を 2 台接続しているときは､出力する機器を選択してください。

4
5　操作ボタンで録画（出力）する内容を確かめる

- 編集トラック上のテープクリップは、プレビュー画面で確認することができません。

5
基本

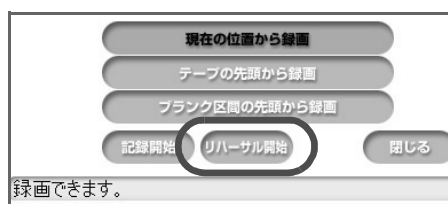
6 テープ上の録画を始める位置を決める

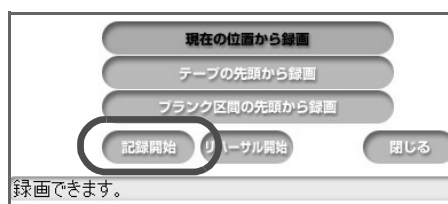
[現在の位置から録画]
現在のテープ位置から録画を開始します。操作ボタンで現在の位置の内容を確認してください。(映像は出力側のデジタルビデオ機器のモニターで確認してください)
[テープの先頭から録画]
テープの先頭から録画を開始します。
[ブランク区間の先頭から録画]
途中まで録画してあるテープのブランクを自動で探し出して録画を開始します。

- 機器によっては［ブランク区間の先頭から録画］が選択できない場合があります。

7 ［リハーサル開始］ボタンをクリックして、どのように録画されるか、接続機器の画面などで確認する

リハーサルが終わると[リハーサルを終了しました]の表示が出ますので、［OK］をクリックしてください。

- リハーサルを中断したいときは［中断］ボタンをクリックしてください。

8 ［記録開始］ボタンをクリックする

録画が始まります。

9 録画終了のメッセージが表示されたら、［OK］ボタンをクリックする

これで編集内容がテープに記録できました。

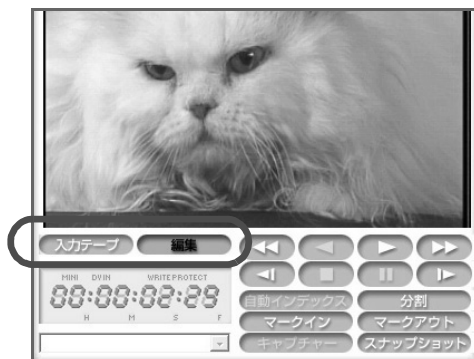
- 録画を中断したいときは［中断］ボタンをクリックしてください。

ハイブリッド編集で録画しよう

ノンリニア編集とリニア編集（テープ編集）を組み合わせて使うことができます。（映像効果を入れたい部分は一度パソコンに取り込む必要があります）
デジタルビデオ機器を最初に使うときはキャリブレーションを行ってください。
この操作の前にデジタルビデオ機器を 2 台接続しておいてください。（**P16**）

入力 / 編集切り換えについて

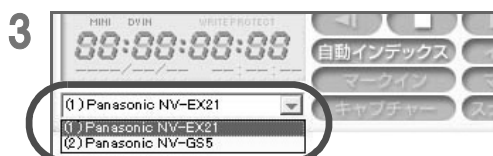
ハイブリッド編集モードでは、必要に応じて入力テープモードと編集モードを切り換えて操作します。

- [入力テープ] ボタンをクリックして入力テープモードにすると、接続機器を操作できます。
- [編集] ボタンをクリックして編集モードにすると、トラックに配置したビデオクリップを制御できます。（ボタンの詳細については PDF 取扱説明書をお読みください）

1 ［編集］→［ハイブリッド編集］を選択し、ハイブリッド編集モードにする

- ［かんたんモード］では使えない操作モードです。［標準モード］にしてから操作してください。（**P20**）

2 ［入力テープ］ボタンをクリックする

入力テープモードになります。
接続しているビデオ機器が操作できます。

3 プルダウンボタン［▼］をクリックして入力機器を選ぶ

4 再生ボタン［▶］をクリックしてデジタルビデオ機器を再生し、テープに記録したい部分にマークイン／アウトを設定する

取り込み開始点にマークインを、取り込み終了点にマークアウトを設定します。（**P22**）

基本

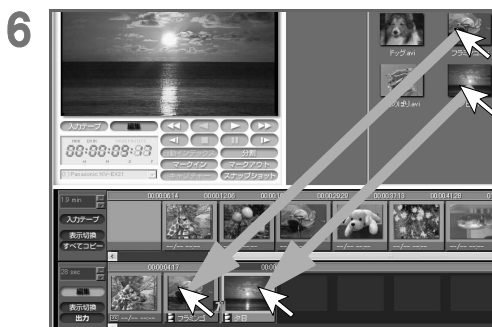
5 入力テープトラックに表示された映像を編集トラックにドラッグ・アンド・ドロップする

編集トラックにも映像のアイコンが表示されます。

- この映像に映像効果を入れることはできません。
  効果を入れるには、一度パソコンに取り込む必要があります。（**P21**）

5

6 ［動画］ライブラリーのビデオクリップを編集トラックにドラッグ・アンド・ドロップする

6

7 手順 4 〜 6 を繰り返し、好みの順序に配置する

デジタルビデオ機器を操作するときは［入力テープ］ボタンをクリックして、入力テープモードにしてから操作します。

8 ［出力］→［DV 機器出力］を選択し、DV 機器出力モードにする

- 編集トラックにある［出力］ボタンをクリックして、起動した出力ウィンドウから［DV 機器出力］を選んでも DV 機器出力モードにすることができます。

8

9 プルダウンボタン［ ⌄ ］をクリックして出力する機器を決める

9

10 操作ボタンで録画（出力）する内容を確かめる

- 編集トラック上のテープクリップは、プレビュー画面で確認することができません。

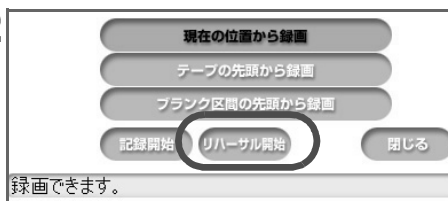
10

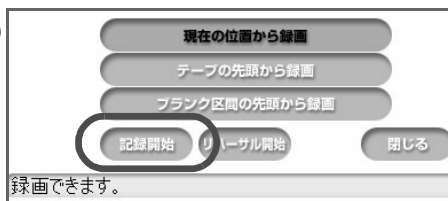
11 テープ上の録画を始める位置を決める

[現在の位置から録画]
現在のテープ位置から録画を開始します。操作ボタンで現在の位置の内容を確認してください。(映像は出力側のデジタルビデオ機器のモニターで確認してください)
[テープの先頭から録画]
テープの先頭から録画を開始します。
[ブランク区間の先頭から録画]
途中まで録画してあるテープのブランクを自動で探し出して録画を開始します。
- 機器によっては［ブランク区間の先頭から録画］が選択できない場合があります。

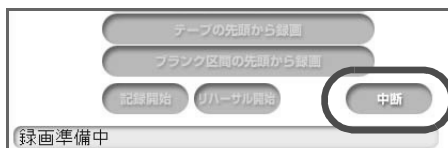
12 ［リハーサル開始］ボタンをクリックして、どのように録画されるか、接続機器の画面などで確認する

リハーサルが終わると［リハーサルを終了しました］の表示が出ますので、［OK］をクリックしてください。

- リハーサルを中断したいときは［中断］ボタンをクリックしてください。

13 ［記録開始］ボタンをクリックする

録画が始まります。

14 録画終了のメッセージが表示されたら、［OK］ボタンをクリックする

これで編集内容がテープに記録できました。

- 録画を中断したいときは［中断］ボタンをクリックしてください。

動画を電子メールで送ろう

ビデオメールモードを使うと、動画を電子メールで送ることができます。
動画形式のファイル（AVI、MPEG2）などを圧縮したファイル形式（ASF）に変換し、電子メールに添付します。（電子メールを送付するには、事前にインターネットや電子メールの設定が必要です）
この操作の前に、電子メールで送りたいクリップ（ビデオクリップ、静止画クリップのみ）を編集トラックに配置しておいてください。（P25）

1 ［出力］→［ビデオメール］を選択し、ビデオメールモードにする

ビデオメール出力画面になり、クリップ（の最初の画面）が表示されます。

- 編集トラックにある［出力］ボタンをクリックして、起動した出力ウィンドウから［ビデオメール］を選んでもビデオメールモードにすることができます。
- ［Mpeg1/Asf］ライブラリー上の Asf ファイルを右クリックしてコンテキストメニューから［ビデオメール出力］を選択すると、ビデオクリップを直接メールソフトへ送ることができます。
- ［動画］ライブラリー上のビデオクリップ（AVI、MPEG2）を出力したい場合は、クリップを出力パネル ① にドラッグ・アンド・ドロップしてください。

1

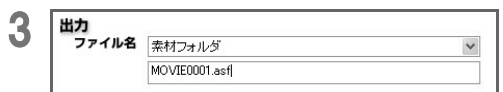
2 操作ボタンで出力する内容を確かめる

2

3 出力フォルダーとファイル名を決める

- MotionDV STUDIOが使用できるフォルダーを選ぶことができます。

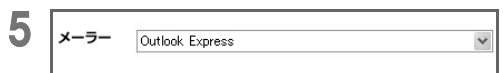
3

出力
ファイル名　素材フォルダ
MOVIE0001.asf

4 ［画質］と［サイズ］で適当な画質とサイズを選ぶ

圧縮予想サイズが下に表示されます。

4

5 ［メーラー］を選択する

5

6 ［出力］ボタンをクリックする

状態表示部に「出力用ファイル作成中」と表示されます。出力が終了するとメーラーが起動して添付ファイルを付けた新規メッセージが表示されます。

- 出力されたファイル（ASF）は、ビデオクリップとして［Mpeg1/Asf］ライブラリーに表示されます。
- 送信する動画ファイルを再生するには、受信者側で Windows Media Player 6.4 以降が必要です。
- メーラーによっては自動で添付されない場合があります。その場合は手動でファイルを添付してください。

6

●動作検証済みのメーラーは、Windows XPに標準搭載されている Outlook Express のみです。

動画形式のファイルを出力しよう

編集した映像を 1 つの動画ファイル（ASF、AVI、MPEG1、MPEG2）として出力します。AVI 形式に出力するとデジタルビデオ機器や DVD ビデオレコーダーへ出力（P46）することができ、ASF 形式で出力するとメールに添付したり Web にアップロードすることができます。
この操作の前に、動画形式のファイルとして出力したいクリップ（ビデオクリップ、静止画クリップのみ）を編集トラックに配置しておいてください。（P25）

1 ［出力］→［ファイル出力］を選択し、ファイル出力モードにする

ファイル出力画面になり、ビデオクリップ（の最初の画面）が表示されます。

- 編集トラックにある［出力］ボタンをクリックして、起動した出力ウィンドウから［ファイル出力］を選んでもファイル出力モードにすることができます。
- ［動画］ライブラリー上のビデオクリップ（AVI、MPEG2）を出力したい場合は、クリップを出力パネル ① にドラッグ・アンド・ドロップしてください。

2 操作ボタンで出力する内容を確かめる

3 出力するファイル名、形式（フォーマット）などを決める

- フォーマット（出力するファイル形式）を選択すると状態表示部 ② にそのファイル形式についての説明が表示されます。（詳細は PDF 取扱説明書をお読みください）
- フォーマットで MPEG2（フォーマット指定）、ASF 形式を選択した場合、画質を選択することができます。

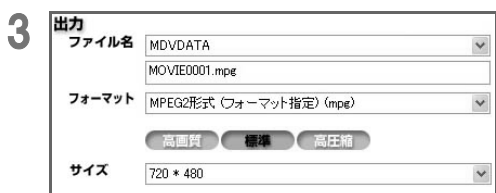
［高画質］
画質はよくなりますが、ファイルサイズは大きくなります。
［標準］
標準的な画質です。ファイルサイズは高画質より小さくなります。
［高圧縮］
画質は標準より劣りますが、ファイルサイズは標準より小さくなります。

4 ［詳細情報］をクリックし、出力されるファイルの予想サイズなどを確認する

確認後は［閉じる］をクリックしてください。

5 ［ファイル出力］ボタンをクリックする

「ファイル出力中」と表示され、ファイルが変換されます。出力が終了すると「ファイル出力を終了しました」と表示されます。

- 出力を中断したいときは［中断］をクリックしてください。
- 出力されたファイルは、ビデオクリップとしてライブラリーに表示されます。

D-VHS ビデオテープに録画しよう

D-VHS ビデオを接続して編集内容を D-VHS ビデオテープに録画します。
この操作の前に、パソコンと D-VHS ビデオを接続しておいてください。（P16）
この操作の前に、D-VHS ビデオに録画したいクリップ（ビデオクリップ、静止画クリップのみ）を編集トラックに配置しておいてください。（P25）

- 編集トラックの長さは15秒以上になるようにしてください。15 秒より短い場合は記録できません。
- 編集トラックに MotionDV STUDIO ではサポートできない種類のMPEG2ファイルが配置されている場合、D-VHSビデオへの出力はできません。

1 ［出力］→［D-VHS 出力］を選択し、D-VHS 出力モードにする

D-VHS 出力画面になり、クリップ（の最初の画面）が表示されます。

- ［かんたんモード］では使えない操作モードです。［標準モード］にしてから操作してください。（P20）
- 編集トラックにある［出力］ボタンをクリックして、起動した出力ウィンドウから［D-VHS 出力］を選んでも D-VHS 出力モードにすることができます。
- ［動画］ライブラリー上のビデオクリップ（AVI、MPEG2）を出力したい場合は、クリップを出力パネル ① にドラッグ・アンド・ドロップしてください。

1

2 操作ボタンで出力する内容を確かめる

2

3 テープ上の録画を始める位置を決める

［現在の位置から録画］
テープ上の現在の位置から録画を開始します。操作ボタンで現在の位置の内容を確認してください。（映像は D-VHS ビデオ側のモニターで確認してください）
［テープの先頭から録画］
テープの先頭から録画を開始します。

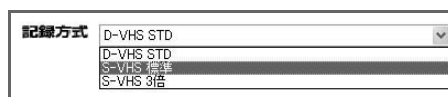
- 14 秒以下の MPEG2 ファイルは D-VHS ビデオに出力できません。

3

4 記録方式を選ぶ

D-VHS ビデオの録画方式を指定します。

- 録画方式は「D-VHS STD」、「D-VHS LS2」、「D-VHS LS3」、「S-VHS 標準」、「S-VHS 3 倍」が用意されていますが、D-VHS ビデオの機種と使用しているテープの種類により、指定できる録画方式は異なります。

4

5 ［リハーサル開始］ボタンをクリックして、どのように録画されるか、D-VHS ビデオの画面で確認する

［出力用ファイル作成中］の表示が出てからリハーサルが始まります。リハーサルが終わると［リハーサルを終了しました］の表示が出ますので、［OK］をクリックしてください。

- リハーサルを中断したいときは［中断］ボタンをクリックしてください。

5

6 ［記録開始］ボタンをクリックする

録画が始まり［録画中］と表示されます。

- 録画を中断したいときは［中断］ボタンをクリックしてください。

6

7 録画終了のメッセージが表示されたら、［OK］ボタンをクリックする

録画が終了します。

7

- ［テープの先頭から録画］を選択して、D-VHS ビデオテープへの記録を開始した場合、巻き戻し動作の終了間際もしくは終了と同時にキャンセルボタンを押さないでください。正常に動作しなくなる場合があります。

応用

DVD ディスクに録画しよう

DVD ビデオレコーダーを接続して編集内容を DVD ディスクに録画します。
パソコンと DVD ビデオレコーダーを接続しておいてください。（**P16**）
この操作の前に、DVD ディスクに録画したいクリップを編集トラックに配置しておいてください。（**P25**）

1 ［出力］→［DVD レコーダ出力］を選択し、DVD レコーダー出力モードにする

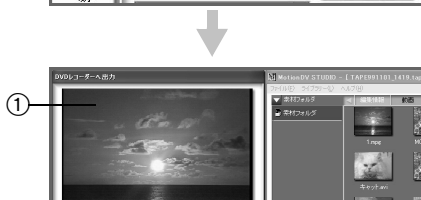
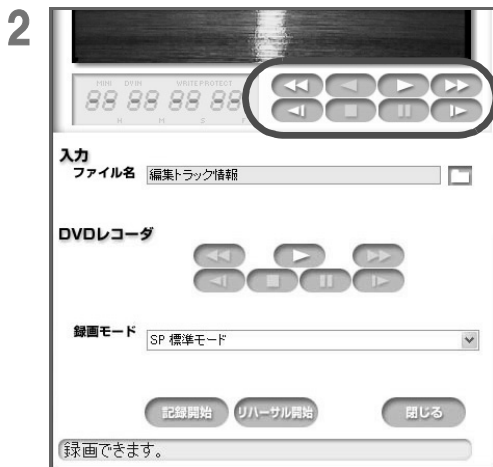
DVD レコーダー出力画面になり、クリップ（の最初の画面）が表示されます。

- ［かんたんモード］では使えない操作モードです。［標準モード］にしてから操作してください。（**P20**）
- 編集トラックにある［出力］ボタンをクリックして、起動した出力ウィンドウから［DVD レコーダ出力］を選んでも DVD レコーダー出力モードにすることができます。
- ［動画］ライブラリー上のビデオクリップ（AVI、MPEG2）を出力したい場合は、クリップを出力パネル ① にドラッグ・アンド・ドロップしてください。

1

2 操作ボタンで出力する内容を確かめる

- 編集トラック上のテープクリップは、プレビュー画面で確認することができません。

2

3 操作ボタンで DVD ディスクの内容を確認する

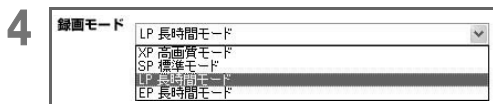
- 映像は DVD ビデオレコーダー側のモニターで確認してください。

3

4 録画モードを決める

DVD ビデオレコーダーの録画モードを指定します。
DVD ビデオレコーダーが、選択したモードに切り換わります。

- ［XP高画質モード］、［SP標準モード］、［LP長時間モード］、［EP 長時間モード］から選ぶことができます。各モードについては DVD ビデオレコーダーの取扱説明書をお読みください。

4

5 ［リハーサル開始］ボタンをクリックして、どのように録画されるか、DVD ビデオレコーダーのモニターで確認する

リハーサルが始まります。リハーサルが終わると［リハーサルを終了しました］の表示が出ますので、［OK］をクリックしてください。

● リハーサルを中断したいときは［中断］ボタンをクリックしてください。

5

6 ［記録開始］ボタンをクリックする

録画が始まります。

● 録画を中断したいときは［中断］ボタンをクリックしてください。

6

7 録画終了のメッセージが表示されたら、［OK］ボタンをクリックする

録画が終了します。

7

応用

編集できるファイル形式に変換しよう

MPEG や ASF ファイルを MotionDV STUDIO で編集したいときは、AVI 形式や MPEG2 形式のファイルに変換して取り込みます。MP3 形式などの音声ファイルも WAV 形式へ変換すると編集に使えます。

1 ［入力］→［メディアインポート］を選択し、メディアインポートモードにする

MediaImporter が起動します。

● ［かんたんモード］では使えない操作モードです。［標準モード］にしてから操作してください。（P20）

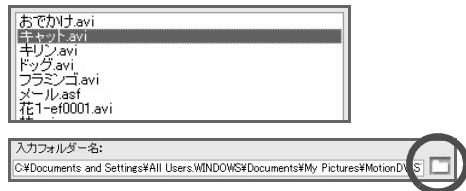
2 保存形式をクリックして選ぶ

［DVAVI 形式に変換する］
MPEG1、MPEG2、MPEG4（ASF）、AVI、WMV 形式のファイルを AVI 形式に変換します。
［WAV 形式に変換する］
MPEG1、MPEG2、MP3、MPEG4（ASF）、AVI、WMV、WMA ファイルを WAV 形式に変換します。

● 映像ファイルを WAV 形式に変換する場合、音声のみのファイルになります。

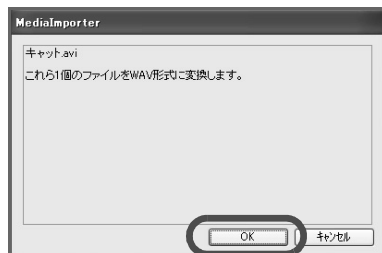
［MPEG2 形式に変換する］
AVI、MPEG2 ファイルを MPEG2 ファイルに変換します。出力するファイルは高画質、標準、高圧縮から選ぶことができます。

3 変換するファイルをクリックして選ぶ

MotionDV STUDIO で使用中のフォルダー以外にあるファイルを選ぶ場合は、フォルダーボタン［ ］をクリックしてフォルダーを選んでからファイルを選びます。

4 ［変換］ボタンをクリックする

変換の内容が表示されます。

5 ［OK］をクリックする

ファイル変換が始まります。

6 変換完了のメッセージが表示されたら［OK］ボタンをクリックし、［閉じる］をクリックして MediaImporter の画面を閉じる

ライブラリー画面に変換したファイルが表示されます。

● 変換したファイルはMotionDV STUDIOで使用しているフォルダーにしか保存できません。

●ファイルフォーマットの内部仕様によっては変換できない場合があり、すべてを保証するものではありません。

Q&A

MotionDV STUDIO を使うときに起こるトラブルの解決方法を説明しています。PDF 取扱説明書の Q&A にも詳しく記載していますので、あわせてお読みください。

接続について

Q1: デジタルビデオ機器が認識されなかったり、操作できなかったりする。

A: デジタルビデオ機器の電源が入っているか確認してください。

A: DV ケーブルがしっかり接続されているか確認してください。
パソコンで認識しない場合は、一度DVケーブルを抜き差ししてください。

A: 接続されているデジタルビデオ機器に何か異常が発生していないか確認してください。

A: ご使用のデジタルビデオ機器が動作確認済みの機器かお確かめください。
（パナソニックのホームページをご覧ください **(P4)**）

A: パソコンの状態が不安定になっている場合があります。
パソコンを起動し直してみてください。

Q2: D-VHS ビデオを接続したが、パソコンが認識しない。

A: パソコンと D-VHS ビデオを接続する前に、パソコンの電源を切っておき、D-VHS ビデオの電源を入れた状態で行ってください。
パソコンの起動後は、接続できているか、［システムのプロパティ］の［デバイス マネージャ］で確認してください。**(P16)**

起動について

Q1: MotionDV STUDIO が起動しなかったり、動作が不安定になる。

A: MotionDV STUDIO が正常にインストールできていない可能性があります。
取扱説明書の手順に従って、再度インストールし直してください。

画像の取り込み（入力）について

Q1: デジタルビデオ機器の映像がパソコンに表示されない。

A: パソコン側から再生操作をしてデジタルビデオ機器に映像が映っても、パソコンの画面に映像が映るまで少し時間がかかります。

A: デジタルビデオ機器を 2 台接続している場合は、再生機（入力側）と録画機（出力側）の選択が正しくできているか確認してください。

A: 記録設定で、［記録時には PC でのモニター表示を停止する。］にチェックが付いていると、記録時の映像がパソコンのプレビュー画面に映りません。
記録設定は TOOL BOX の［設定］を選び、［高度設定］タブをクリックすると設定できます。

Q2: 映像の取り込みができない。

A: 約４分の映像を取り込むのに約 1 GB 以上の空き容量が必要です。
ハードディスクの空き容量は充分かどうか確認してください。

A: テープ映像にタイムコードが連続して記録されていないと、正常に取り込めないことがあります。
タイムコードが連続している、記録済みのテープをご使用ください。
また、このようなテープで取り込みを行うと、クリップがライブラリー上に正常に表示されないことがあります。
［ライブラリー］→［最新の情報に更新］を選択して更新すると表示されます。

Q3:　取り込み中にこま落ちや音飛びがする。

A:　パソコンのハードディスクに DMA 設定がされていないと、正常に取り込みできないことがあります。
Windows のシステムプロパティ画面から［ハードウェア］の［デバイスマネージャ］を開き（OS によっては、システムプロパティ画面の［デバイスマネージャ］タブをクリックし）、［IDE ATA/ATAPI コントローラ］をダブルクリックし、［プライマリ IDE チャネル］をダブルクリックしてプロパティ画面を表示します。［詳細設定］の［転送モード］に DMA を選び設定を行います。

- DMA　設定はお使いのパソコンによって方法が異なります。詳しくはパソコンの取扱説明書をご覧ください。

Q4:　［インデックス］はどのように使うのですか。

A:　テープ映像を再生中に［インデックス］ボタンをクリックすると、インデックス（目印）が入ります。（入力テープトラックのシーンはインデックスが入ったところで分割されます）インデックスとインデックスの間の映像を複数選んで簡単にパソコンに取り込むことができます。
また、［自動インデックス］ボタンをクリックすると、シーンの変わり目を自動的に探し出し、インデックスを付けます。インデックス情報は保存できます。その情報は再び同じテープで編集するときに使うことができます。（PDF 取扱説明書参照）

編集、加工について

Q1:　特殊効果が入らない。

A:　入力テープトラックの映像（テープクリップ）を編集トラックに配置しても、ビデオエフェクトやトランジションエフェクトなどの特殊効果を入れることはできません。
入力テープトラックの映像は、一度パソコンに取り込むと特殊効果を入れることができます。

Q2:　長いビデオクリップの一部に特殊効果を入れたい。

A:　配置したビデオクリップは分割することができます。分割すると、その部分だけに特殊効果を入れることができます。
編集トラックに配置したビデオクリップの分割したいところにカレントバー（赤いライン）を移動させて［分割］ボタンをクリックすると、ビデオクリップが 2 分割されます。（PDF 取扱説明書参照）

Q3:　タイトルエディターで動き設定をしたのに、タイトルが動かない。

A:　動きを設定したあとに［動画形式で保存］を選んで保存すると動くようになります。保存されたクリップをダブルクリックして、再生ソフトで再生するとタイトルの動きを見ることができます。

Q4:　タイトルエディターの［動き設定］でアニメーションイラストに 3 次元の動き（3D）を付けられない。

A:　3D の設定ができるのは、文字と 3D 文字だけです。アニメーションイラストや子画面には、縦移動・横移動の他に放物線や波線の動きを設定できます。（応用）（PDF 取扱説明書参照）

Q5:　動画映像の中に違う映像が動いているような映像が作りたい。

A:　TOOL BOX から［タイトルエディタ］をクリックしてタイトルエディターを起動します。ビデオクリップをライブラリーから編集画面にドラッグ・アンド・ドロップします。次にメニューの［オブジェクト］→［Video ファイル挿入］を選びます。子画面として表示したい動画ファイルを選ぶと、ビデオクリップに別映像が子画面として配置されます。（動画形式で保存すると、２つの映像ファイルが合成され、1 つのビデオクリップになります）（PDF 取扱説明書参照）

Q6: 徐々に消えていくようなタイトルが作りたい。

A: タイトルエディターで文字やイラストを配置し、メニューの［オブジェクト］→［動き設定］を選びます。［静止］ボタンをクリックしてフェード時間を設定すると、徐々に消えていく（または現れる）タイトルを作ることができます。（PDF 取扱説明書参照）

Q7: 画面に描いた図形に動き設定ができない。

A: タイトルエディターの描画ツールを使って、円や長方形、線を描くことはできますが、これらは動かすことができません。描いた図形などに動き設定をしたい場合は、Windows に付属の［ペイント］ソフトなどで描いた図形をビットマップ形式で保存してください。メニューの［オブジェクト］→［スプライト挿入］を選んでその画像を配置すると、動き設定ができます。（PDF 取扱説明書参照）

Q8: 取り込んだ画像を印刷したい。

A: MotionDV STUDIO では取り込んだ画像をそのまま印刷することはできません。
静止画クリップなどを印刷したい場合は、Windows に付属のペイントソフトを使うと印刷することができます。（ライブラリーの静止画クリップをダブルクリックするとソフトが起動します）
MotionDV STUDIO では、DV テープや VHS テープのラベルを印刷することができます。また、映像の情報をタイムシートとして印刷することもできます。（PDF 取扱説明書参照）

Q9: 映像に別のビデオクリップ（AVI 形式）の音声を入れたい。

A: 音声を入れ始めるビデオクリップを編集トラックから選び、メニューの［編集］→［オーディオミックス］をクリックしてオーディオミックス画面を表示させます。［Wave ファイル］の［ファイル名］に音声の入ったビデオクリップ（AVI 形式のみ）のファイル名とパスを入力すると、その映像の音声が追加されます。（PDF 取扱説明書参照）

Q10: オーディオミックスでオーディオ CD の音楽を入れたい。

A: オーディオ CD の音声を録音する場合、Windows 側で録音デバイスの設定が必要になります。以下の手順で行ってください。

1. ［スタート］→［すべてのプログラム（プログラム）］→［アクセサリ］→［エンターテイメント］→［ボリュームコントロール］を選ぶ
2. メニューの［オプション］→［プロパティ］を選び、［録音］を選んで、表示するコントロールすべてにチェックを入れ、［OK］をクリックする。
3. ［ステレオミキサー］を選択する

- 機種によっては［ミキサー］［録音ミキサー］などと表示されている場合があります。
- パソコンによっては CD から録音できないものもあります。詳しくはパソコンの説明書をお読みください。（PDF 取扱説明書参照）

Q11: 10 秒のビデオクリップにオーディオミックスした場合、10.01 と設定できた。

A: MotionDV STUDIO の編集トラックでは、本来 1 秒間のフレーム数（29.97 フレーム）を使いやすくするために、30 フレームで構成しています。そのため、編集トラック上でビデオクリップの長さが 10 秒のものは正確に時間計算すると、10.0100…秒になります。

その他

編集映像の録画（出力）について

Q1: **D-VHS ビデオを接続して、編集映像を D-VHS ビデオテープに録画しようとすると、エラーメッセージが出た。**

A: D-VHS ビデオ側の設定を IEEE1394 にしていますか？ IEEE1394 にしたら、次に接続機器として映像出力元のパソコンを選んでください（d1 その他 d2 その他など）。
（選択方法がわからないときは、まず MotionDV STUDIO を終了し、D-VHS ビデオ以外の IEEE1394 機器をパソコンから外して、D-VHS ビデオとパソコンだけが接続されている状態にしてください。IEEE1394 を設定し、再度 MotionDV STUDIO を起動して［D-VHS 出力］を選ぶと、D-VHS ビデオ側で自動的に映像出力元のパソコンを選択します）

Q2: **D-VHS ビデオテープに記録できない。**

A: D-VHS ビデオテープに記録できる MPEG2 ファイルは、MotionDV STUDIO 4.6 で作成したものだけです。
また、MotionDV STUDIO 2.0 や 3.0 で作成した MPEG ファイルは正常に記録できませんので、MotionDV STUDIO 4.6 で再度 MPEG2 ファイルに変換（P48「編集できるファイル形式に変換しよう」を参照）してから記録してください。

Q3: **D-VHS ビデオテープに記録したり、リハーサルしても、D-VHS ビデオに接続したテレビに映像が映らない。**

A: D-VHS ビデオに MPEG2 エンコーダーが内蔵されていなければ、記録中やリハーサル中の映像はテレビに表示されません。その場合、一度記録したテープを D-VHS ビデオで再生してご確認ください。
対象機種は、当社製 D-VHS ビデオ、品番 NV-DH1、NV-DHE10、NV-DH2、NV-DHE20 です。（2002 年 11 月現在）

その他

Q1: **キャリブレーションが正常に完了しなかった。**

A: MotionDV STUDIO を終了し、パソコンの再起動を行ってください。

Q2: **キャリブレーションをすると途中で止まってしまう。**

A: キャリブレーションの実行中に、キャリブレーションが止まってしまう場合は再度キャリブレーションを行ってください。
それでも止まる場合は、手動でフレーム調整を行ってください。手動設定は、TOOL BOX の［設定］をクリックし、［機器］タブを選択して、［タイミング調整］設定部にずれていると思われるフレーム数を入力して補正します。
記録開始位置と記録終了位置はそれぞれ－ 60 ～＋ 60 フレームまでの調整が可能です。（PDF 取扱説明書参照）

Q3: **使用したい操作モードのアイコンが TOOL BOX に表示されていない。**

A: ［かんたんモード］でご使用の場合は、基本的な機能の操作モードアイコンだけが表示されます。
すべての操作モードを使用したい場合は、［標準モード］に切り換えてお使いください。

お願いとヒント

お願いとヒントは PDF 取扱説明書にも詳しく記載していますので、あわせてお読みください。

●MotionDV STUDIO を使用するときは、Administrator（コンピューターの管理者）グループに所属したユーザーでログオンしてください。

●MotionDV STUDIO をインストールしたことで、パソコン本体、パソコン周辺機器、他のアプリケーションの動作に不具合が起きた場合は、MotionDV STUDIO をアンインストールしてください。特に他社のビデオ編集ソフトをお使いになっている場合は、先にそちらのソフトをアンインストールしてから MotionDV STUDIO を取扱説明書の手順に従ってインストールすることをおすすめします。

●MotionDV STUDIO 使用中、パソコンが不安定になったり、ソフトウェアが終了することがあります。パソコンの使用状態にもよりますが、画像編集は非常に大きなパソコンのパワーを必要としますので、パソコンが不安定な状態になることがあります。編集したデーターなどはこまめに保存しておくことをおすすめします。

●ノートパソコンをお使いの場合は、AC 電源をお使いください。バッテリーを使用するとパソコンの設定によって、CPU 性能を制限していることがあります。（この場合こま落ちが発生しやすくなります）

●MotionDV STUDIO 使用中はデジタルビデオ機器の電源を切らないでください。電源を切ると、MotionDV STUDIO が操作できなくなることがあります。

●カセット装着後は、10 秒ほどたってから操作を行ってください。

●パソコン上の映像画面には、接続機器側の日付などの情報は表示されません。

●デジタルビデオ機器を接続しているのに、映像や音声が出ない場合は、MotionDV STUDIO を一度終了させ、DV ケーブルを接続し直したあと、再度 MotionDV STUDIO を起動してください。

●入力テープに SP モードで記録した映像と LP モードで記録した映像が混在している場合、モードの切り換わり部分での取り込みが正常にできないことがあります。

●自動インデックスが止まった場合は、そのまま再度［自動インデックス］ボタンをクリックしてください。自動インデックスが再開します。

●メディアインポートモードを使ってファイル形式を変換する場合、ファイルによっては変換できないことがあります。（ファイル出力モード、ビデオメールモード以外で作成されたASFファイルや、Windows 標準形式以外の形式の AVI ファイルなど）

●著作権情報が設定されているファイルは、権利者の許可なしに変換することはできません。

●オーディオライブラリーには 当社製 BGM ジェネレーター（SY-VM1）で作成されたオーディオサンプル（.mbm）が入っています。
オーディオサンプルの利用条件などは、メニューの ［ヘルプ］→［オンライン］→［サンプルオーディオについて］をお読みください。

●ライブラリー上のファイルを他のソフトで使用しているときに削除や名前の変更をすることはできません。
また、他のソフトで使用していないときに、削除や名前の変更ができなくなった場合には、MotionDV STUDIO を一度終了し、再度起動し直してください。

●ハイブリッド編集時にビデオ / 静止画クリップとテープクリップのつなぎ目で映像や音声がとぎれることがあります。編集映像を録画（出力）する前に、必ずキャリブレーションを行ってください。
また、キャリブレーション実行中にデジタルビデオ機器を操作しないでください。ただし、D-VHS ビデオと DVD ビデオレコーダーのキャリブレーションはできません。
キャリブレーションが途中で止まったときは、手動でフレームを調整してください。（**P52**）

●テープクリップを編集トラックにドラッグ・アンド・ドロップで配置する場合、2 秒以下の映像は配置できません。

●編集トラック上でクリップの最小フレーム数は、MPEG2 ファイルの場合 30 フレーム、AVI、静止画ファイルの場合 5 フレームです。

●長時間のビデオクリップをレンダリングすると非常に時間がかかります。レンダリング中は、パソコンを操作しないでください。操作すると、レンダリングがうまくいかないことがあります。

●編集内容をテープに記録する場合、記録を開始したいテープ位置で静止画再生にしてから［記録開始］ボタンを押すことをおすすめします。（［現在の位置から録画］を選んだ場合）

●テープの始端や終端付近では正常に記録できないことがあります。

●D-VHS ビデオへ出力中に音声表示が左になり、記録中に「左右」になりますが、出力には問題ありません。出力映像は正常に記録されています。

●D-VHS ビデオを 2 台以上接続しないでください。MotionDV STUDIO で認識できるのは 1 台だけです。

●D-VHS ビデオや DVD ビデオレコーダーで番組を予約している場合は、予約を解除してから出力映像を記録してください。

●MotionDV STUDIO を起動させたままログオフすると不具合が起こる場合があります。Windows をログオフする前に、必ず MotionDV STUDIO を終了させてください。

ユーザーサポートについて

Panasonic のソフトウェアに関して

MotionDV STUDIO 4.6J に関するお問い合わせは、
下記のお客様ご相談センターへお願いいたします。

ナショナル／パナソニック お客様ご相談センター

TEL フリーダイヤル **0120-878-365**

FAX フリーダイヤル **0120-878-236**

■ 携帯電話、PHS でのご利用は・・・06-6907-1187

365 日／受付 9:00 〜 20:00

URL http://www.panasonic.co.jp/customer/index.html

便利メモ おぼえのため記入されると便利です	お買い上げ日	年 月 日	品 番	VW-DMDVS4 VW-DTM4W
	販売店名	☎（ ） ー		

松下電器産業株式会社
AVC ネットワーク事業グループ
〒 571-8505 大阪府門真市松生町 1 番 4 号
システム事業グループ
〒 571-8503 大阪府門真市松葉町 2 番 15 号

VQT0C93
S1202Th0（1000 Ⓐ）